

災害教訓事例集

～後世に災害を語り継ぐ～



はじめに

近年、これまでにない規模の豪雨や地震などにより、各地で大きな被害が発生しています。

本県においても、大雨、台風、高潮などの風水害や地震・津波によって、何度も被害を受けています。

県では、過去に発生した災害を教訓として、日頃からの備えを進めていただくことを目的として、平成 28 年 3 月に、県内の主な災害の状況や、被災された方の体験談、災害の様子などを刻んだ石碑等をまとめた「災害教訓事例集」を発行しました。

この度、県東部を中心に広い範囲で土砂災害や河川の氾濫を引き起こした「平成 30 年 7 月豪雨」の事例や、過去の災害を踏まえて整備した災害対策施設等に関する内容を加える改訂を行いました。

本事例集により、過去に発生した災害からの貴重な教訓をご覧いただき、身近な地域の災害リスクを改めて確認するとともに、日頃からの備えを進めていただきますようお願いいたします。

目次

1 山口県の風水害(大雨、台風・高潮 など)	1-1
1-1 大正7年7月台風(1918年7月)	1-2
1-2 周防灘台風(1942年8月)	1-3
1-3 枕崎台風(1945年9月)	1-6
トピックス 台風	1-8
1-4 昭和26年7月豪雨(1951年7月)	1-9
トピックス 高潮	1-10
1-5 ルース台風(1951年10月)	1-11
トピックス 土砂災害	1-12
1-6 昭和38年1月豪雪(1962年12月～1963年2月)	1-13
1-7 昭和47年7月豪雨(1972年7月)	1-14
1-8 昭和58年7月豪雨(1983年7月)	1-15
1-9 平成3年台風第19号(1991年9月)	1-16
1-10 平成11年台風第18号(1999年9月)	1-17
トピックス ハザードマップ	1-18
1-11 平成17年台風第14号(2005年9月)	1-19
1-12 平成21年7月21日豪雨(2009年7月)	1-21
1-13 平成22年7月15日大雨(2010年7月)	1-24
トピックス 避難するときに注意する事	1-25
1-14 平成25年7月28日大雨(2013年7月)	1-26
トピックス 避難情報の種類、気象に関する情報	1-28
1-15 平成26年8月6日大雨(2014年8月)	1-29
1-16 平成30年7月豪雨(2018年7月)	1-31
トピックス 災害対策関連施設等	1-33
2 山口県の地震・津波	2-1
2-1 貞享地震(1686年1月4日)	2-2
2-2 宝永地震(1707年10月28日)	2-3
トピックス 緊急地震速報	2-4
2-3 安政南海地震(1854年12月24日)	2-5
トピックス 周防大島町立城山小学校の取り組み	2-6
2-4 浜田地震(1872年3月14日)	2-7
トピックス 震度の観測	2-7
2-5 山口県中部の地震(1987年11月18日)	2-8
2-6 山口県北部の地震(1997年6月25日)	2-9
2-7 平成13年芸予地震(2001年3月24日)	2-10
トピックス 南海トラフ地震、山口県の活断層	2-11
トピックス 家具の転倒防止など、地震の心得十か条	2-12
3 山口県内の災害伝承(伝説・昔話、ことわざ)	3-1
トピックス 津波、津波に関する情報	3-8
トピックス 自然災害伝承碑	3-9
4 災害教訓一覧	4-1
参考 山口県の主な災害(昭和20年以降)	5-1

1

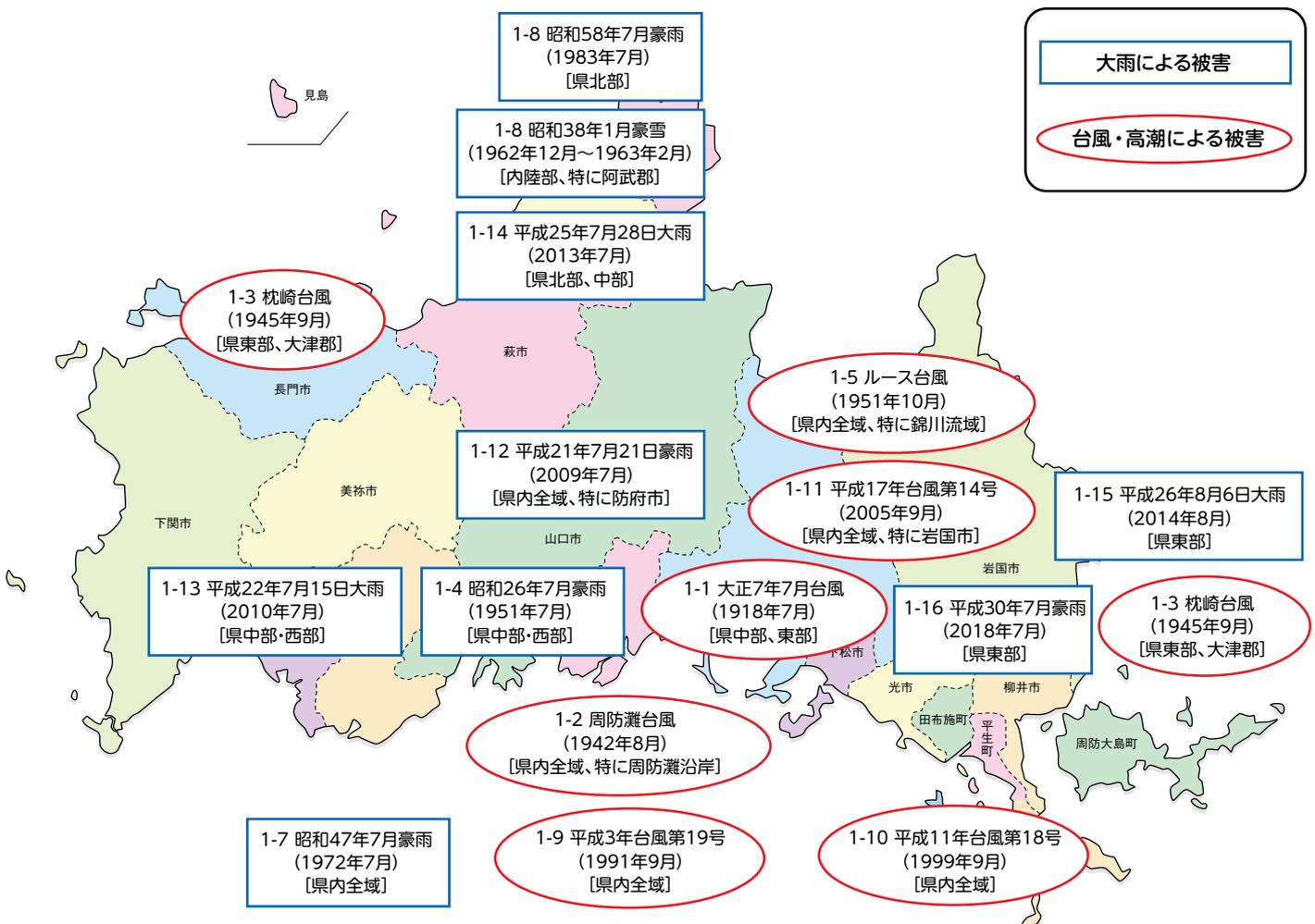
山口県の風水害(大雨、台風・高潮 など)

◆ 山口県は、本州の最西端に位置し、中国山地により山陽と山陰に区分され、平地が少なく、地形が複雑に入り組み、急な傾斜地が多い。また、河川は一般に幅が狭く、流れが急なものが多く、地質的にも風化しやすく浸食に弱い花崗岩地帯も多いことから、梅雨前線の停滞・活発化や台風の接近・上陸等による大雨で、洪水・浸水、土砂崩れ・土石流などによる被害が、過去、数多く発生している。

また、最近は、雨の降り方が局所化・集中化・激じん化していることから、このような豪雨による災害も発生し、大きな被害が出ている。

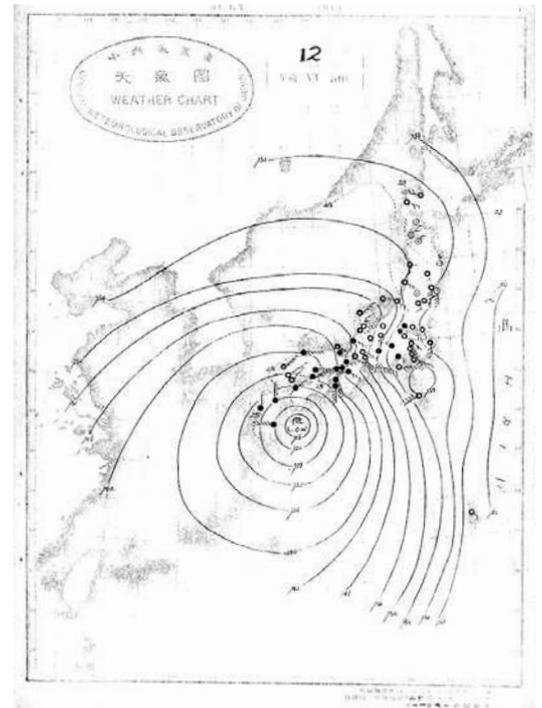
◆ 勢力の強い台風が、九州の西の海上を弱まることなく北上し、対馬海峡を通過したときや、長崎県に上陸した後北東に進んだ場合には、台風による強風や大雨により、過去、大きな被害が発生している。

また、周防灘沿岸は、対岸距離が長く、入り江、湾形の多い南向きの海岸であるため、台風がこのようなコースをとれば、猛烈な風により瀬戸内海や豊後水道から海水が吹き寄せられることから、高潮による災害も発生している。





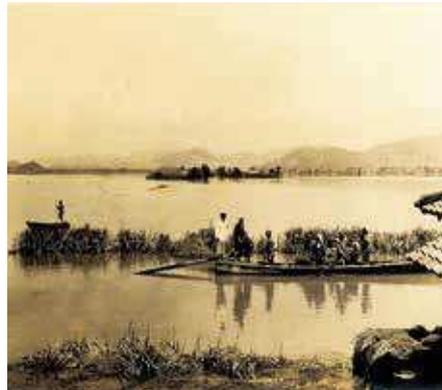
防府町字古曾原新橋下堤防決潰箇所 (山口県文書館所蔵)



天気図



防府町字古曾原新橋下堤防決潰箇所
(山口県文書館所蔵)



西浦村新開作浸水状況
(山口県文書館所蔵)



右田村玉祖神社前ノ惨状
(山口県文書館所蔵)

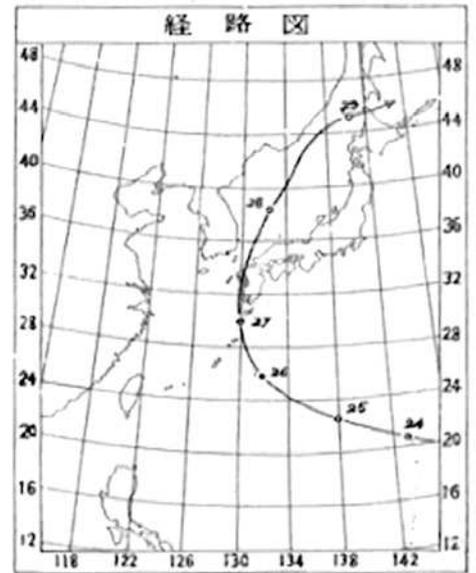
気象の概要	<ul style="list-style-type: none"> ■ 台風が沖縄の東を北上して鹿児島県東部、大分県、山口県を経て日本海に入ったため、7月10日から12日にかけて、県内各地で160mm~270mmの豪雨となり、佐波川の増水は約4mに達した。 ■ 下関では12日朝から暴風となったが、その日の夜にはおさまった。 		
	総降水量(mm)	160~270	最大風速(m/s) 24(下関)
被災場所	県中部、東部		
被害の規模	(人的被害)佐波郡:死者6人 (住家被害)佐波郡:浸水家屋3,451戸、流失家屋49戸、倒壊家屋42戸 (その他被害)橋りょう落下・流失40ヶ所 など		
被害の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ■ 佐波川では過去最大の洪水となった。 ■ 豪雨のため各河川が著しく増水し、堤防の決壊や橋りょうの落下・流出が発生し、浸水家屋 3,451戸、現在の防府市街地南部が浸水、防府市域の浸水面積が約 1,000ha となった。 		



台風の大雨により、佐波川で洪水が発生したんだ。
 台風は積乱雲が集まったもので、雨を広い範囲に長い時間降らせるおそれがあるんだ。
 強い雨が続くと大雨による災害が発生しやすいから注意してね。



倒壊した家屋 (宇部市学びの森くすのき所蔵)



台風経路図



真締川河口の混乱
(宇部市学びの森くすのき所蔵)



台風による嘉川付近の被害状況
(山口県文書館所蔵)



台風による嘉川付近の被害状況
(山口県文書館所蔵)

気象の概要	■ 周防灘台風は、26日正午に南大東島の北東約100kmの洋上を通過し、同日18時頃から九州西岸に向かって北上した。台風が九州に接近すると、九州・四国方面は26日夜遅くから暴風雨となり、九州通過の際はさらに風雨が強まり、27日夕方、山口県に襲来した。					
	最低気圧(hPa)	967(下関)	最大風速(m/s)	34.2(下関)	最大瞬間風速(m/s)	37.8(下関)
	総降水量(mm)	77.5(下関)	日降水量(mm)	46.7(下関)		
被災場所	県内全域、特に周防灘沿岸部					
被害の規模	(人的被害)死者708人、行方不明者86人、負傷者559人 (住家被害)流失1,996棟、全壊2,990棟、半壊9,060棟、浸水42,165棟 (その他被害)道路損壊67ヶ所、橋りょう流失5ヶ所、船舶流失・沈没2,257隻、鉄道(山陽線)10日間不通など					
被害の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ■ 台風が山口県の西海上を北上し、速度が遅かったため暴風域に長時間入っていた。最接近が真夜中で満潮時と重なったことから、周防灘沿岸では高潮による家屋の流失や損壊が発生した。特に厚東川では堤防が決壊し、甚大な被害をもたらした。 ■ 太平洋戦争で観測情報や天気予報などの報道が制限されていたことから、多くの住民が台風接近を知ったのは直前となり、十分な対策がとれないうちに災害に巻き込まれた。 ■ 全国から60万3千9百円余の義捐金が集まり、また、約47万点余の衣類が寄せられた。 ■ 山口県の周防灘沿岸に大きな高潮災害をもたらしたため「周防灘台風」と呼ばれる。 					



すおうなだたいふう きしやうじやうほう じゆんぴ
周防灘台風では、気象情報が伝わるのが遅くて、多くの住民が十分な準備ができないう
ちに被害にあったんだ。
ひごろ かくにん きげん ひなん
日頃から気象情報を確認し、身の危険を感じたら早めに避難しよう。

体験談 『失った白い筆箱』 宇部市 男性

その日、昭和十七年八月二十七日を、生涯忘れることはできない。

その日は午後から風雨が強くなり、夕方には屋根瓦が飛びようになった。しかし、それほど大事に至るとは、家族の者は誰も思っていなかった。(中略)

夜勤に出るはずであった父は、強風のため自転車に乗れず、交通機関は完全にストップしたので出勤不可能のため家にいた。夜に入って父は、家と堤防の間を、何度も何度も往復していた。風雨の強さは、今から思えば異常であった。何度目かの堤防への様子見から帰って来た父は、「起きろ。支度をしろ。堤防が切れた。逃げるぞ。」と、怒鳴った。その瞬間、何がどうなって、これからどういう行動を、この暴風雨の中でとるのか咄嗟には理解できなかった。とにかく父の言うことに従い、手をつないで家の外へ出た。強風で足が前へ思うように出ず、ほおを叩く雨粒で目を見開いて暗闇を見通すことがなかなかできない。手を離すと、糸の切れた風船の様に飛ばされそう。それでもなんとか役場前まで来た時、「あれは何か」という父の声で、南の方に視線をやると、暗闇を通して稲の上一尺くらいの高さに白い物がかすかに見えた。次の瞬間、「水だ、引き返せ」という父の声につられて、琴川橋をめがけて走ろうとした。今度はまともに風に向かって走らねばならず、体が浮き上がるようになるため、うまく前へ進めない。やっとの思いで農協の建物の角にたどり着いたとたん、水が怒涛のごとく打ち寄せて来た。五月に生まれた弟を背負って最後尾にいた母が、波に足元をすくわれて倒れた。皆が手をつないで引き摺った。波と風に連れて行かれそうなところを、全員の手で食い止めた。こうようにして琴川橋たもとの堤防にたどり上がった。助かったという安堵感を味わうというよりも、これからどうするのかという不安感でいっぱいだった。堤防上を沖の目めがけて行くことになった。しかし、百メートル行った杉病院の曲がり角で警防団の方にストップをかけられた。そして堤防と同じ高さにある岡本宅に避難させてもらった。

やっと助かった思いが胸の中に広がった。二階へあげてもらった。強風をまともに受けるらしく地震のように家が揺れた。その後たくさんの家族が避難してきた。眠ることはできなかった。

どのくらい後だったか、厚南平野の方の窓から、流される家の屋根に乗って助けを求めて必死に叫ぶ人を、暗闇の中に発見したが、だれも助けに行ける状況ではなかった。すぐにその人は見えなくなった。

家族ごとに身を寄せ合いながら夜が明けるのを待った。非常に長い時間を感じられた。東の空が明るくなるにつれて、強風も嘘のように静まってきた。岩鼻の山の上に太陽が顔を出したころ、岡本宅を出た。堤防の上を自分の家のある方へ急いだ。雲ひとつない晴天、太陽の光が目の中でチカチカした。昨夜のできごとが信じられなかった。我が家の見える所まで来た。水が軒まで来ていて屋根しか見えない。厚南平野が海である。茫然自失、これからどうなるのか見当もつかない。(中略)

明日から学校が始まるというので、学用品はどこにあるかを親に尋ねた。何もなかった。夏休みの前半に田圃の除草をよく手伝った駄賃として、欲しくてたまらなかった白いセルロイドの筆箱を盆に買ってもらっていた。それがどこに流されたのか発見できなかった。母がすまなさそうに言った。仕方がないと思いながらもくやくしてたまらなかった。(後略)



厚東川の堤防に避難する市民
(宇部市学びの森くすのき所蔵)



復興作業(宇部市学びの森くすのき所蔵)

厚南風水害受難追悼記念事業実行委員会『厚南大風水害の思い出—五十回忌追悼記念誌—』より転載

関係する石碑



すおうなだたいふう 周防灘台風は、山口県に大きな被害をもたらしたことから、各地ひがいに関係するかくち石碑があるよ。かんけい

①【厚南大風水害受難追悼之碑】

【水害高潮記念碑】

宇部市の厚南地区では厚東川の堤防決壊などにより、死者・行方不明者が約 200 人にも及んだ。

宇部市の妻崎神社境内には、この凄惨な被害を後世に伝えるための石碑と、当時の最高潮位 2.3mを示す記念碑が建立された。



厚南大風水害受難追悼之碑



水害高潮記念碑



②【風水害救援感謝碑】

宇部市・小野田市では、高潮により多くの衣類が流されたため、全国から多くの衣類が寄せられた。

山陽小野田市中川には、全国からの衣類寄附に対する感謝の意と高潮時の潮位を伝えるため、石碑が建立された。



風水害救援感謝碑



③【大風水害受難之碑】

山口市名田島では、死者 32 人、家屋の全壊流失 68 戸、半壊 109 戸、床上浸水 90 戸、床下浸水 33 戸という深刻な被害が発生したことから、当時の被害と水位を伝える石碑が建立された。



大風水害受難之碑



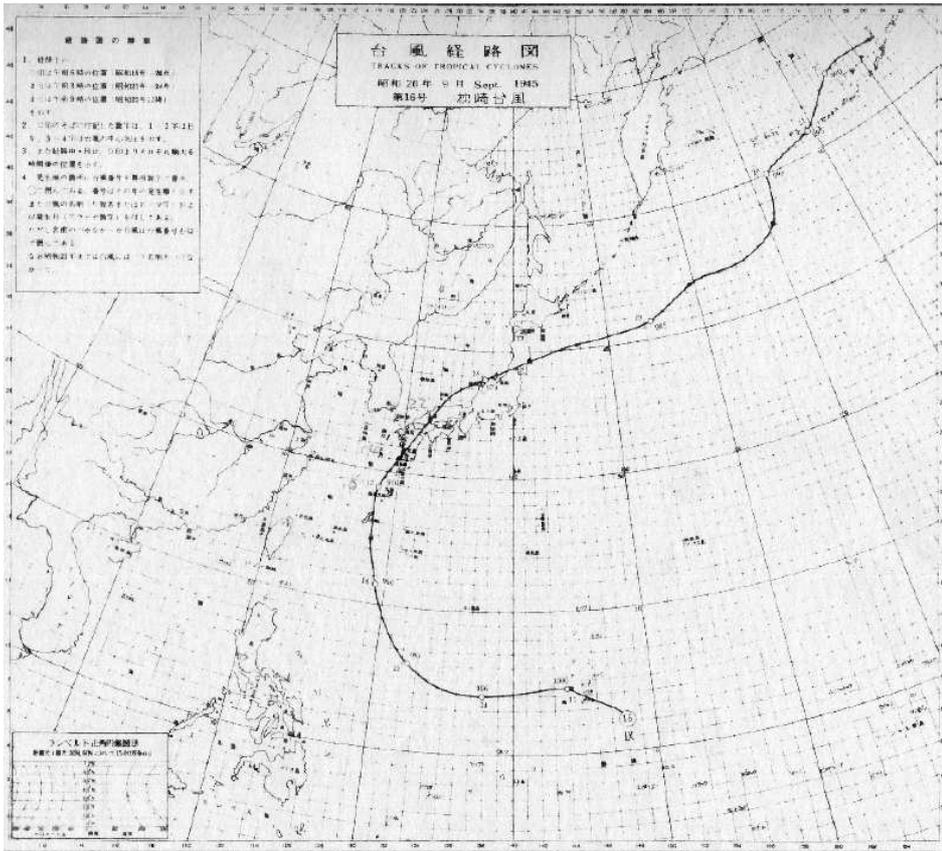
④【高潮来襲記念碑】

山口市秋穂では、死者 2 人、負傷者 8 人、家屋の流失倒壊 418 戸、半壊 203 戸、浸水 856 戸という被害が発生したほか、堤防決壊 24 ヶ所、田畑浸水 177 町、船舶全損 66 隻、流失 31 隻という甚大な被害となったことから、台風襲来の石碑が建立された。

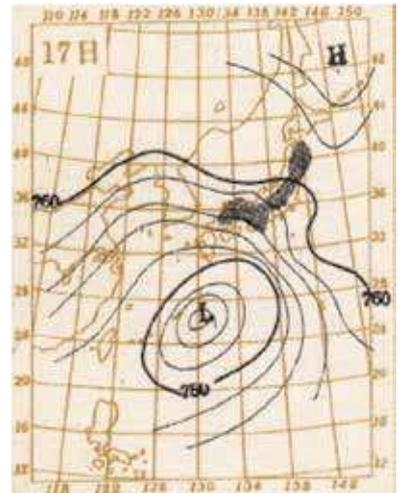


高潮来襲記念碑

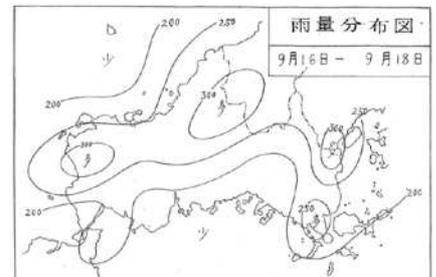




台風経路図



天気図(9月17日18時)



雨量分布図(9月16日~18日)

気象の概要	<ul style="list-style-type: none"> 枕崎台風は、9月17日14時頃鹿児島県枕崎市付近に上陸し、九州東部、愛媛県、広島県を経て、18日午前6時ごろ能登半島をかすめ、本州を横断して太平洋上にいった。 枕崎(鹿児島県枕崎市)で観測された最低気圧916.1hPaは、室戸台風の際に室戸岬(高知県室戸市)で観測された911.6hPa(当時の記録として、もっとも低い気圧)に次ぐ低い値となった。 					
	最低気圧(hPa)	969.8(下関)	最大風速(m/s)	23.2(下関)	最大瞬間風速(m/s)	37.1(下関)
	総降水量(mm)	160.1(下関)	日降水量(mm)	146.7(下関)		
被災場所	県東部、大津郡					
被害の規模	(人的被害)死者427人、行方不明者274人、負傷者283人 (住家被害)流失501棟、全壊1,330棟、半壊2,760棟、床上浸水12,679棟、床下浸水18,442棟 (その他被害)道路損壊1,108ヶ所、橋りょう流失337ヶ所、船舶の流失・沈没745隻 など <被害額総計>約2億7700万円					
被害の特徴	<ul style="list-style-type: none"> 超大型の台風だったこと、台風の接近で秋雨前線の活動が活発になったこと、終戦直後のことで気象情報が少なく防災体制も不十分であったことから、被害が拡大した。 岩国市や大津郡では降水量200~300mm以上となり、島田川などで洪水が発生した。 台風の勢力と犠牲者の多さから室戸台風や伊勢湾台風と並ぶ「昭和の三大台風」の一つに挙げられる。全国の死者・行方不明者数3,756人の半数強は、洪水や土砂災害が頻発した広島県に集中し、広島県では死者・行方不明者が2,012人に及んだ。 					



たいふう せつせん あきさめぜんせん
台風の接近で秋雨前線の活動が活発になったことから大雨になったんだ。
 ばいうぜんせん ていたい
梅雨前線や秋雨前線が停滞しているときに台風が近づくと大雨になるおそれがあるか
 きしうじょうほう ちゅうい
ら、気象情報に注意してね。

体験談

『枕崎台風の襲来を受けて(思い出)』 岩国市 女性

(前略) 終戦後少し落ち着いたかのように思われたが、九月には何日も降り続いた雨。のちの中に突然の台風が襲ったのです。柱野駅先の鉄橋が流れ更に増水が一度に高まったのでした。

濁流は道路を越え家はメキメキと傾きはじめた。 (中略)

外は猛獣が吼え盛るようなゴーゴーとすごい。恐怖の中で唯々脅えるばかりでした。 (中略)

その時隣のおじさんが自らの家へ連れて行くから一人ずつ小さいのから出すように言われ、縁側からまず赤ちゃんを姉が抱き、母と二人で縁側に出ましたがもう縁側は流されて二人共濁流へ落ち、赤ちゃんは流されてしまったのです。

母も姉も落ち込み姿も見えず私達子供は泣き叫びました。すると弟と私が母と姉の手をつかみ引き上げられたのです。

それこそ神様の御加護を知りました。母は「みんな手をつなぎ一緒に流されたんだよ」と…

座っている畳はプカーッと浮き、水はもう口まで来ています。もう大分流れているようでした。

私は一心に神様にお祈りをしました、「どうか命だけはお助けください」と…

少し経った後、水が少しずつ減ってきました。母が「助かった」と云い、みんな喜びました。雨も小降りになりましたが風が強くなりみんな体を寄せ合って夜が明けるのを待ちました。

家のものは全部流れましたが命は助かりました。これは大きないちじくの木が支えてくれたのです。この台風で柱野は三十六人、御庄も六十八人が死亡したと聞きました。蓄えていた食料も全部流され田畑も全滅し食料もなく食べられるものは何でも、麦わらまで粉にし、僅かな小麦と混ぜ食べました。

その後一ヶ月経った頃父が復員しました。汽車も不通のため、藤生駅から大きな荷物を背負って川もこぶって帰ったとのこと。 (後略)

西川暁『御庄ウォーク』より転載

体験談

『岩国御庄地区の被害』 岩国市 男性

枕崎台風の夜、家には九人の家族と来客一人がいた。

今までの経験から大したことはないと思って寝ていたところ、午後九時ごろ岩徳線の鉄橋が墜落したため、それまでに溜まっていた大量の水が一気に流出したので、水は堤防を越えて進入したので忽ち決壊し御庄盆地は濁流と流木で満水となり軒下まで浸水した。

これがため家は浮き流れそうになったので納屋の屋根に上がりそれから母屋の方に移った。

暫くして家は流れ出した。御庄盆地は流れが緩やかであったが錦川の本流に出ると家は分解するのではないかという不安があったので、家族はみんな必死で屋根に取りついていて、そのまま本流に出たが水は予想していたほど出ていないので分解の心配はなかった。

それはそのはずで上流から流れてくるまでに四時間はかかるからである。多田、関戸、大内迫を通過して錦帯橋の下を無事に通り抜けて臥竜橋、鉄橋、愛宕橋を経て牛野谷の井堰に差しかかった時、コンクリートに激突したため、家は分解して十人はバラバラになって激流に放り出された。

ああこれまでかと思ったが幸い近くを流れていた丸太に取りつき、必死で流れているうちに母と一緒に、荒海の瀬戸内海に出て一晩中漂流、夜明けとともに波はおさまったが疲れは増してきた。

しかし、救助に来てくれそうな気配はない。疲れ切って眠くなり木から手が離れそうになる。母は眠ると死ぬと云って励ましてくれた。十八日の十二時頃大島の東端を漂流中伊保田村の小藪初太郎さんに救助されたので、命拾いした。この時は己に死の寸前であった。 (中略)

帰って見ると自分の家も近所の家もない。残った家も廃家同様に傾いている堤防は各所で決壊し田圃には大きな石や木がゴロゴロして荒廃していた。洪水の猛威に茫然となった。 (後略)

西川暁『御庄ウォーク』より転載

関係する石碑



いわくにし ゆ う まくらざきたいふう しんすい すいい
 岩国市由宇には、枕崎台風が接近した時の浸水水位が表示されているよ。

【枕崎台風時の水位】

岩国市由宇では、由宇川や室岡川などが氾濫し、死者・行方不明者42人、家屋の流失・全壊・半壊151戸、床上浸水545戸、床下浸水655戸という大きな被害となったことから、当時の浸水水位が表示されている。



枕崎台風接近時の浸水水位

トピックス

台風

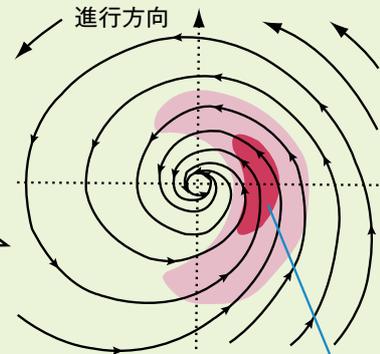


ほくせいたいへいよう そんざい ねったいていきあつ さいだいふうそく
 北西太平洋又は南シナ海に存在する「熱帯低気圧」のうち、最大風速がおおよそ
 17m/s(34ノット、風力8)以上のものを「台風」と呼ぶんだよ。

勢力の強い台風が、九州の西海上を北上し、対馬海峡を通過したときや長崎県に上陸した後、北東に進んだ場合には、山口県に大きな被害が発生している。

台風が、このようなコースをとれば、猛烈な風により瀬戸内海や豊後水道から海水が吹き寄せられ、高潮による災害も起こりやすくなる。

反時計回りに風が吹き込む台風の右(東)半分は風が強くなる。



風の強いエリア

【気象庁による台風の表現】

台風の「大きさ」は風速15m/s以上の強風域の半径で、「強さ」は中心付近の最大風速で決定する。

大きさ

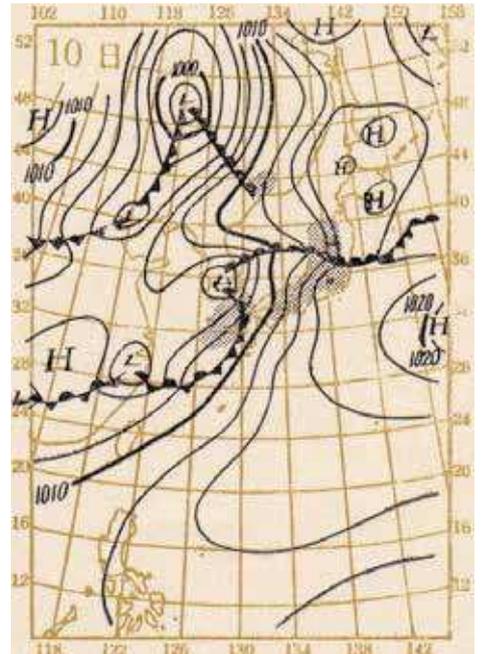
階級	強風域の半径
大型	500km 以上～800km 未満
超大型	800km 以上

強さ

階級	最大風速
強い	33m/s 以上～44m/s 未満
非常に強い	44m/s 以上～54m/s 未満
猛烈な	54m/s 以上



佐波川筋 出雲村地内



天気図(7月10日9時)



佐波郡右田村



萩市 橋本橋



下関市吉見町福江

気象の概要	■ 7月8日、低気圧が東に進むにしたがって梅雨前線も北上し、9日午後、梅雨前線が防府市を通過した。この頃から豪雨となり、10日早朝、寒冷前線の通過で再び豪雨となり、7日から17日までの降水量は400~700mm に達した。					
	総降水量(mm)	536.4 (下関)	日降水量(mm)	136.8 (下関)	1時間降水量(mm)	28.1 (萩)
被災場所	県中部、西部					
被害の規模	(人的被害)死者28人、行方不明者1人、重傷者33人、軽傷者395人 (住家被害)全壊362棟、半壊1,058棟、流失173棟、床上浸水4,467棟、床下浸水18,188棟 (その他被害)道路損壊614ヶ所、橋りょう流失219ヶ所、堤防決壊420ヶ所、田畑流失埋没1,969町、田畑冠水13,301町 など <被害額総計>約 128 億円					
被害の特徴	■ 佐波川では戦後最大の洪水となり、死者11人、家屋破損1,083戸、家屋浸水3,397戸、冠水面積1,388ha、堤防決壊が17ヶ所におよび、防府市街地を除くほとんどの低地部に氾濫がおよんだ。 ■ この災害により佐波川流域における治水への関心が高まり、佐波川の改修や堤防の改良、佐波川ダムの整備が進められた。					



つ ゆ まっ き しゅうちゅうごうう さ ば が わ こうずい
 梅雨末期の集中豪雨により、佐波川で洪水が発生したんだ。
 低気圧や台風、前線などによって積乱雲が同じ場所で次々と発生・発達を繰り返すときに、集中豪雨が発生するおそれがあるんだよ。

関係する石碑



ほうふしわじには、さばがわ こうずい さいこうすい しめ せきび
防府市和字には、佐波川の洪水の最高水位を示した石碑があるよ。

【佐波川大洪水最高水位碑】

昭和 26 年7月、梅雨末期特有の集中豪雨により佐波川の堤防が決壊し、周辺地区の家屋が全壊するなど甚大な災害が発生した。

防府市和字には佐波川大洪水の最高水位を示した石碑が建立された。



佐波川大洪水最高水位碑(防府市和字)

トピックス

高潮

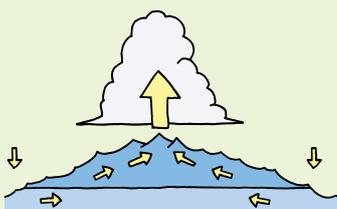


台風などによって気圧きあつが下がると、海面かいめんが持ち上げられ（吸い上げ効果）、また強風おきが沖から海岸かいめんじょうしやうに向かって吹くことで海水が海岸に吹き寄せられ（吹き寄せ効果）海岸付近の海面上昇たかしおが起こるんだ。これらによって発生する海面上昇を「高潮」と呼ぶんだよ。

【吸い上げ効果】

台風や低気圧の中心が接近して気圧が下がると海面を吸い上げるように作用する。外洋では気圧が1hPa下がると海面は約1cm上昇するとされている。

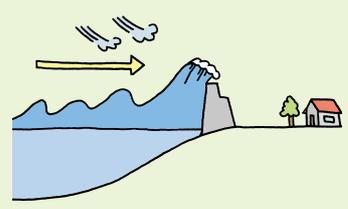
気圧低下による海面の吸い上げ



【吹き寄せ効果】

強風が沖から海岸に向かって吹き続けると、海水が海岸に吹き寄せられて海面が上昇する。風速が2倍になると、吹き寄せによる海面上昇は4倍になる。

風による海水の吹き寄せ

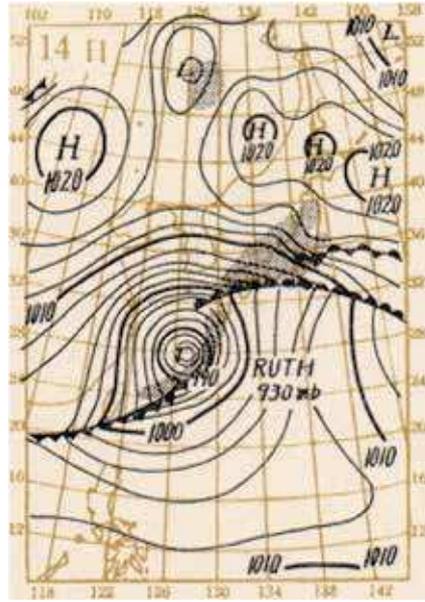


山口県南方の周防灘は瀬戸内海で最も広い海域で、その沿岸は入り江や湾形の多い南向きの海岸であるため、高潮の影響を受けやすくなっている。また、周防灘西部では、吹き寄せられた海水が関門海峡にせき止められ、高潮・高波の影響が大きくなる。

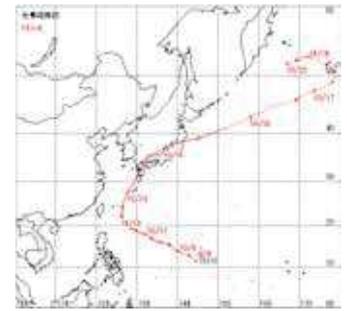




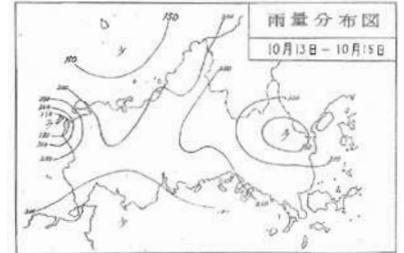
ルース台風の被害を受けた神代村海岸
(山口県文書館所蔵)



天気図(10月14日18時)



台風経路図



雨量分布図(10月13日~15日)



錦帯橋付近



臥龍橋の様子



流失した天尾橋

気象の概要	<ul style="list-style-type: none"> ルース台風は、発達しながら北上し、14日19時頃鹿児島県串木野市付近に上陸した。速い速度で九州を縦断、14日夜遅くに山口県を横断し、15日早朝に山陰を経て、北陸沖に進んだ。 台風の勢力が強く、暴風半径も広がったため、全国各地で暴風となり、また、九州、四国、中国地方で大雨となった。 山口県では最大風速35m/sに達し、県東部では13日から14日の総降水量が480mmに及び、1時間降水量が100mmに達する豪雨となった。 					
	最低気圧(hPa)	962.2(防府)	最大風速(m/s)	23.5(下関)	最大瞬間風速(m/s)	31.8(下関)
	総降水量(mm)	207.3(萩)	日降水量(mm)	131.8(萩)	1時間降水量(mm)	26.3(萩)
被災場所	県内全域、特に錦川流域					
被害の規模	(人的被害)死者281人、行方不明者124人、重傷者269人、軽傷者1,600人 (住家被害)流失465棟、全壊1,646棟、半壊5,427棟、床上浸水7,827棟、床下浸水28,163棟 (その他被害)道路3,267ヶ所、河川2,305ヶ所、橋りょう955ヶ所 など <被害額総計>約327億円					
被害の特徴	<ul style="list-style-type: none"> 錦川上流の玖珂郡(現岩国市)では、死者・行方不明者309人、負傷者1,288人、家屋流失全壊1,159戸、道路破損1,507ヶ所、橋りょう流失587ヶ所、堤防決壊1,263ヶ所に及んだ。また、北河内村(現岩国市)では山崩れにより1集落がほぼ壊滅状態となった。 この台風で、警察予備隊(自衛隊の前身)の災害出動が初めて行われた。 					



ルース台風による大雨で、土砂災害や河川の洪水が発生したんだ。
 台風によって、大量の雨が短期間(数時間から数日)のうちに広い範囲に降るから、
 河川が増水したり堤防が壊れて水害(浸水や洪水)が起きることがあるんだよ。

関係する石碑



いわくにしみかわちょう
岩国市美川町には、ルース台風による被害の状況と最高水位を示す記念碑があるよ。

【ルース台風災害記念碑】

ルース台風により、桑根村(現在の岩国市美川町)では死者 17 名、流失家屋 115 戸という未曾有の被害が発生した。

ルース台風災害記念碑は、この災害の状況を後世に伝えるため、災害 1 周年の昭和 27 年 10 月に南桑小学校(現在の美川小学校)に建立された。



ルース台風災害記念碑(岩国市美川町)



最高水位(記念碑側面)



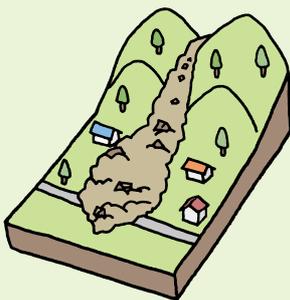
地理院タイルを加工して作成

トピックス

土砂災害

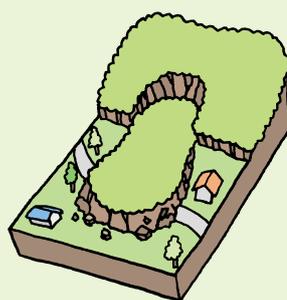


どしゃ ひがい どしゃさいがい
土砂による被害(いわゆる「土砂災害」)は、その発生のしかたにより、「土石流」
どせきりゅう
「地すべり」 「がけ崩れ」の3つに大きく分けることができるんだよ。



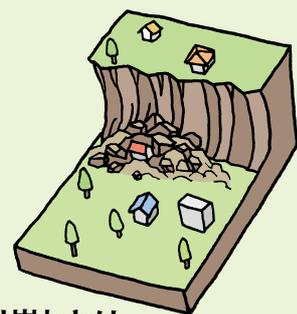
土石流とは

大量の土・石・砂などが、集中豪雨などの大量の水と混じり合って、津波のように流れ出てくるのが土石流である。流れの先端部に大きな岩があることが多いため破壊力も大きくスピードも速いので悲惨な被害を及ぼす。



地すべりとは

粘土などのすべりやすい層を境に、その地面がそっくりズルズル動き出すのが、地すべりである。地割れで田畑や家が壊されたり、押し出された土砂や地面の移動のために道路や建物が広い範囲で被害を受ける。

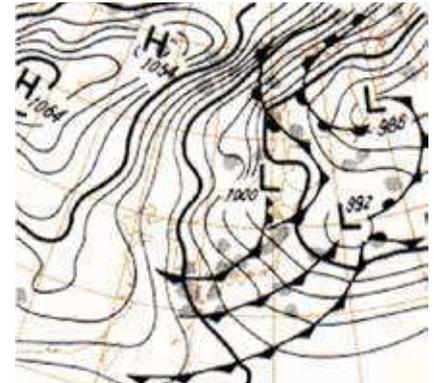


がけ崩れとは

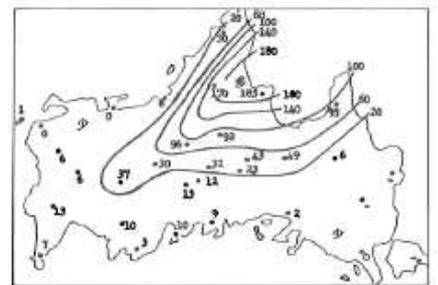
雨で地中にしみ込んだ水分が土の抵抗力を弱め斜面が突然崩れ落ちるのが、がけ崩れである。前ぶれもなく突然起こることが多く、スピードも速いため、人家の近くで起きると逃げ遅れる人が多く、死者の割合も高くなる。また、地震が原因で起きることもある。



むつみ村高俣中学校



天気図(1月24日9時)



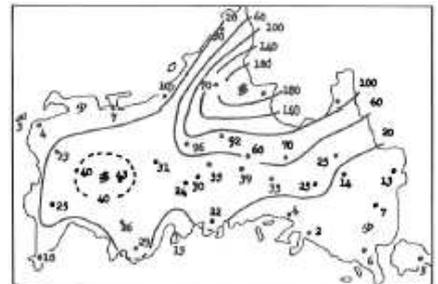
積雪分布図(2月5日)



雪おろし 阿東町 (山口県文書館所蔵)



阿武郡阿東町徳佐



最深積雪分布図(1月1日~2月10日)

気象の概要	<ul style="list-style-type: none"> 1月1日、低気圧が日本海で発達し、西高東低の冬型の気圧配置となり、北西の風が強まり、寒気が南下して雪が降り始めた。この頃から2月13日にかけて、低気圧が継続的に日本海に入って発達したことから、強い寒気の流れ込みが続き、記録的な豪雪となった。
	最深積雪(cm) 185(徳佐)
被災場所	内陸部、特に阿武郡
被害の規模	(人的被害)死者10人、負傷者11人 (住家被害)住家全壊66棟、半壊938棟、非住家全壊372棟、非住家半壊768棟 (その他被害)河川道路破損348箇所、鉄軌道1,206箇所 など <被害額総計>約42億円
被害の特徴	<ul style="list-style-type: none"> 長期にわたる降雪、低温、強風のため、山間部では積雪による家屋の倒壊や、雪崩による被害が発生した。また、バスや鉄道などの陸上交通の不通が発生した。 北陸地方を中心に東北地方から九州にかけての広い範囲で降雪が続き、記録的な豪雪となったことから、気象庁はこの期間の豪雪を「昭和38年1月豪雪」と命名した。



しょうわ 38年 1月 豪雪 では、しも の せき し 下関市の火の山でスキーができるほど雪が降ったんだ。
 ひごろ 日頃雪が降らないような場所でも雪が積もることがあるから、雪に対する知識を深めておくことが大切だよ。



四十八瀬川 氾濫



天気図(7月11日09時)



総降水量分布図



家屋被害



田畑被害



田畑被害

気象の概要	<ul style="list-style-type: none"> 7月9日、梅雨前線が南下し県北部を中心に強い雨となり、10日、九州北部に停滞したため県東部と西部で大雨となった。11日から12日にかけて前線が対馬海峡南部に停滞し、県内各地で大雨を降らせた。 7月9日から13日にかけて降った雨は、須佐で610mm、仙崎で557mm、県中部で400mmに達した。 					
	総降水量(mm)	589.5(萩)	日降水量(mm)	297.0(山口)	1時間降水量(mm)	61.0(下関)
被災場所	県内全域					
被害の規模	<p>(人的被害)死者17人、重傷者21人、軽傷者31人 (住家被害)全壊84棟、半壊141棟、一部損壊9,144棟、床上浸水3,098棟、床下浸水22,104棟 (その他被害)道路6,106ヶ所、河川3,833ヶ所、山地崩壊1,173ヶ所 など <被害額総計>約300億円</p>					
被害の特徴	<ul style="list-style-type: none"> 県北西部を中心に県下56市町村の内52市町村に被害が及び、山口市、小野田市、楠町、小郡町、徳地町、川上村の2市3町1村に災害救助法が適用された。 道路、鉄道がいたるところで、崩壊、浸水によって不通となり、一部孤立する町村が発生した。 中国地方では河川の氾濫による浸水害が多発し、愛知県や岐阜県、神奈川県ではがけ崩れや河川の氾濫により多数の死者が出たことから、気象庁では7月3日から13日にかけての大雨を「昭和47年7月豪雨」と命名した。 					

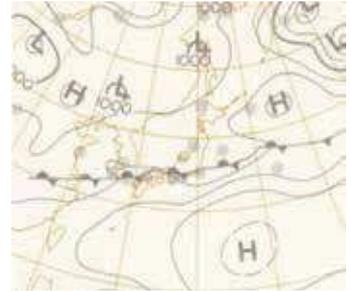


しょうわ ごうう さいがいきけんかしょ ひがい
昭和47年7月豪雨では、災害危険個所で被害が発生したんだ。

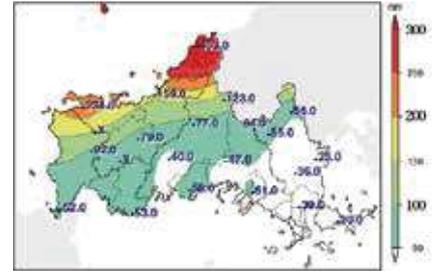
自分の住んでいる地域ちいきにどんな災害さいがいが発生するのか、日頃からハザードマップひごろで確認かくにんしよう。



阿武郡須佐町山地崩壊状況



天気図(7月23日03時)



総降水量分布図



阿武郡須佐町沖浦地内



阿武郡田万川町



阿武郡田万川町家屋床上浸水

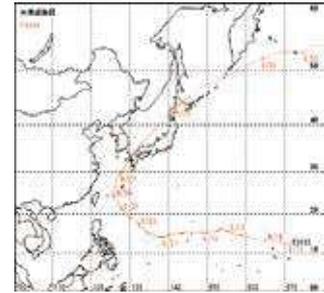
気象の概要	<ul style="list-style-type: none"> 7月20日から21日にかけて、低気圧が日本海を進んだことから梅雨前線の活動が活発となり日本海側で大雨になった。22日から23日にかけて前線上を低気圧が東に進み、日本の南の海上から暖かく湿った空気が流れ込んだことから、山口県北部は局所的な豪雨となった。 梅雨末期の集中豪雨により、総降水量は田万川で560.5mm、日降水量は須佐で23日に206mm、1時間降水量は田万川で23日に83mmの記録的な豪雨となり、須佐町、田万川町では多数の床上浸水、床下浸水や山崩れによる家屋の倒壊が発生した。 					
	総降水量(mm)	403.0(須佐)	日降水量(mm)	99.0(萩)	1時間降水量(mm)	27.0(萩)
被災場所	県北部					
被害の規模	(人的被害)死者5人、重傷者1人、軽傷者5人 (住家被害)全壊24棟、半壊12棟、一部損壊32棟、床上浸水282棟、床下浸水783棟 (その他被害)道路422ヶ所、河川553ヶ所、山地崩壊212ヶ所 など <被害額総計>約81億円					
被害の特徴	<ul style="list-style-type: none"> 7月20日から22日にかけての先行降雨により地盤がゆるんでいたこと、7月22日夜遅くから23日早朝にかけて豪雨になったことから、山崩れ、がけ崩れ、道路、河川の損壊が相次いだ。 山口県北部、島根県西部、広島県北部で局地的豪雨に見舞われたことから、気象庁では7月20日から23日にかけての豪雨を「昭和58年7月豪雨」と命名した。 					



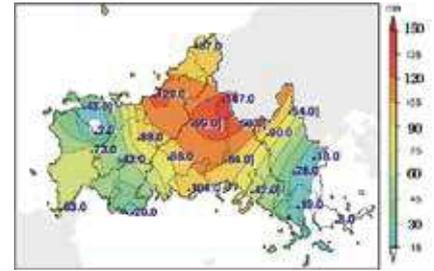
しょうわ 7月ごうう では、大雨によるどしゃさいがい ひがいはじめから 昭和58年7月豪雨では、大雨による土砂災害で被害が発生したんだ。
土砂災害の多くは大雨によって起こり、1時間に30ミリ以上または降り始めから
100ミリ以上の降水りょう量になったらちゅうい ひつようだよ。



強風被害



台風経路図



総降水量分布図



光市光井地区



光市光井海岸



大島郡大島町

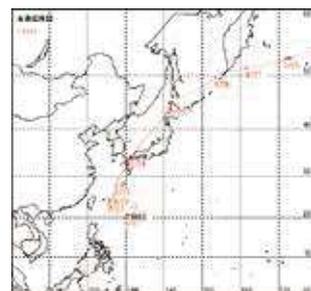
気象の概要	<ul style="list-style-type: none"> ■ 台風第19号は、中心気圧 940hPa、中心付近の最大風速 50m/s、暴風域の半径 300km の大型で非常に強い勢力を保ったまま 27日 16時頃長崎県佐世保市付近に上陸、その後も勢力は衰えず、速度を速めながら進み、18時から19時にかけて山口県北西部を経て日本海に抜けた。 ■ 瀬戸内海沿岸部では台風通過時に南よりの風が非常に強く、高潮による瞬間最高潮位は下関市で 448cm に達した 					
	最低気圧 (hPa)	947.0 (下関)	最大風速 (m/s)	27.4 (山口)	最大瞬間風速 (m/s)	53.1 (山口)
	総降水量 (mm)	147.0 (徳佐)	日降水量 (mm)	114.5 (萩)	1時間降水量 (mm)	58.0 (萩)
被災場所	県内全域					
被害の規模	(人的被害) 死者6人、重傷者30人、軽傷者209人 (住家被害) 全壊35棟、半壊650棟、一部破損36,018棟、床上浸水520棟、床下浸水2,835棟 (その他被害) 道路227ヶ所、漁港165ヶ所、農作物被害21,100ha、森林被害308,862 ha など <被害額総計> 約516億円					
被害の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ■ 最低気圧が下関で 947hPa、最大瞬間風速が山口で 53.1m/s、高潮による瞬間最高潮位が下関で 448cm を記録し、強風と塩害、高潮による被害が多く発生した。 ■ 突風による鉄塔・電柱の倒壊が発生し、停電戸数が最大で 653,500 戸となった。また、停電の復旧が進む中、塩害による二次災害が発生し、停電が長期化した。 					



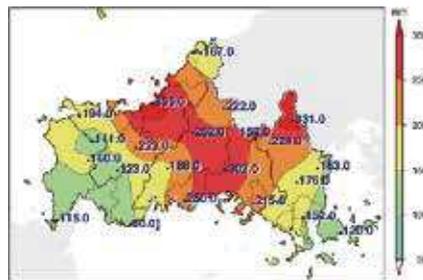
台風による強風で、鉄塔や電柱の倒れる被害が発生したんだ。
 台風の進行方向の右側では、台風自身の反時計回りに吹く風と台風を移動させる周りの風が同じ方向に吹くから風が強くなるんだ。台風が山口県の西側を通るときは、強風に注意してね。



山口宇部空港駐車場



台風経路図



総降水量分布図



山口宇部空港



高潮(宇部市内)



宇佐川(錦町河本)

気象の概要	■ 台風第18号は、24日6時頃、中型で強い勢力を保ったまま熊本県北部に上陸した。九州北部を横断し、周防灘へ抜けた後、24日9時前に宇部市付近に再上陸した。 ■ その後、台風は山口市付近を通過、24日10時頃に島根県益田市付近を日本海へ抜けた。					
	最低気圧(hPa)	962.6(下関)	最大風速(m/s)	20.2(山口)	最大瞬間風速(m/s)	46.4(山口)
	総降水量(mm)	355.0(萩)	日降水量(mm)	255.0(萩)	1時間降水量(mm)	93.0(萩)
被災場所	県内全域					
被害の規模	(人的被害)死者3人、重傷者25人、軽傷者154人 (住家被害)全壊80棟、半壊1,284棟、一部破損10,741棟、床上浸水2,468棟、床下浸水7,372棟 (その他被害)道路401ヶ所、河川394ヶ所、被害船舶527隻 など <被害額総計>約415億円					
被害の特徴	■ 山口県は全域が暴風域に入り、各地に暴風雨による被害が発生した。また、台風上陸が大潮の満潮と重なったことから、瀬戸内海沿岸で記録的な高潮となった。 ■ 県東部を中心に1時間雨量が60mm以上を記録する豪雨となり、特に錦町(旧岩国市)では錦川やその支流の宇佐川が氾濫し、家屋の全半壊など多大な被害をもたらした。 ■ 台風が上陸した24日、山口宇部空港沖側の防潮堤の一部が倒壊、滑走路は完全に冠水し、空港ターミナルビルが1.2mほど海水に浸かった。					



台風の接近と大潮の満潮が重なったため、瀬戸内海沿岸で記録的な高潮になったんだ。
 台風が接近すると、強い風が海水を吹き寄せ、また、海面が吸い上げられ、高潮になるんだ。大潮の満潮と台風の接近が重なると、高潮による浸水のおそれが高くなるんだよ。

体験談 『台風通過の全国ニュース、地元の状況分からず ～避難勧告の空振り「最高」～』 宇部市 女性

もちろんテレビは朝からつけっぱなしにしていたのですが、ニュースじゃ台風が通過しているということだけでね。自分の意識がなかったのかもしれないけど、当時、避難勧告とかはなかったような気がするんです。

10年も前ですから、今と違って、ニュースで言っているよりも台風が先に来ることもあったし、気象情報でも放送局がある山口の天気は言っても、宇部の情報はなかったように思います。

だけど、あの時、台風がどういう経路で動くかというのは知っていたわけだし、自分の住んでいる地域を通るというのは少なくとも知っていたわけだから、自分が悪いということは間違いないんですよ。まさしくど真ん中を通ると知っていて、避難しなかったのだから。

今は違いますよ。「情報は待っていたらだめ。自分で積極的に取りに行く」というのと、周りが何と言おうと避難勧告が出たら家にはいないということです。もう、水が押し寄せてきたら、避難なんてできないんですよ。だから避難勧告には絶対に応じないといけないと思います。避難勧告が空振りに終わればラッキー。「空振りばんざい、最高」です。

内閣府『1日前プロジェクト』より転載



高潮(宇部市内)

体験談 『災害時にも必要だった女性の視点』 宇部市 女性

被害にあったおばあちゃんのところへ、ボランティアの方へやと来てもらったんです。でも、そのおばあちゃんは、結局見てもらいたくないものがあるのか、「女性のボランティアの人に来てほしい」と、こう言われたんです。

で、市のほうに行ったら、女性のボランティアの人は今はおらんと言う。仕方がないので、市の福祉課に電話して、「ばあちゃんが困っているけん、相談相手になってくれんかね」とお願いしました。

やっぱり女性の視点が要するというのは、今どこでも教えられていますよね。部屋の押し入れを片づけてもらう時にも、女性の物や何かがあるから男性では困る。だからと言って、女性の力ではモノを運びきれないという矛盾がありました。

また、災害で避難した女性が着替えをする場所を確保するとか、女性への配慮が必要だということもこれから啓発して欲しいと思っています。

内閣府『1日前プロジェクト』より転載



山口大学医学部

トピックス

ハザードマップ

各市町では、災害が発生したときに被害が及びそうな場所を「ハザードマップ」として地図に示しているんだ。

洪水、高潮、土砂災害、ため池などのハザードマップがあり、各市町で見ることや入手することができるよ。市町ホームページでも公開されているから、確認してみよう。

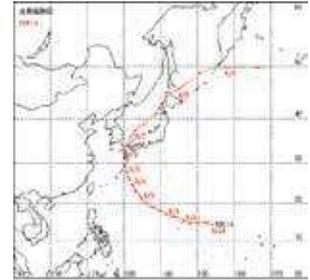




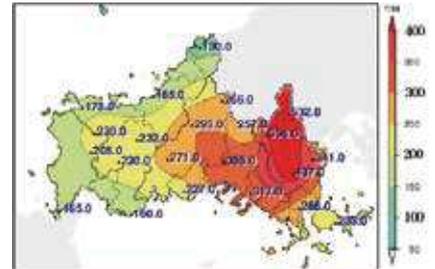
山陽自動車道の崩落(岩国市)



錦川鉄道の土砂崩れ



台風経路図



総降水量分布図



岩国市川西交差点



錦帯橋



美川小中学校共用体育館

気象の概要	<ul style="list-style-type: none"> ■ 台風第14号は、9月6日に長崎県諫早市付近に上陸した後、勢力を弱めながら佐賀県や福岡県を縦断し、20時頃響灘へ出て、夜に山口県の北西岸を経て日本海を北東へ進んだ。 ■ 1時間降水量は、羅漢山で59mm(6日17時20分)、広瀬で55mm(6日19時10分)、岩国で47mm(6日18時00分)を観測し、6日の日降水量は、7観測点(羅漢山472mm 玖珂382mm 広瀬352mmなど)で観測史上1位を記録した。 					
	最低気圧(hPa)	973.3(下関)	最大風速(m/s)	24.0(宇部)	最大瞬間風速(m/s)	35.4(山口)
	総降水量(mm)	532.0(羅漢山)	日降水量(mm)	472.0(羅漢山)	1時間降水量(mm)	59.0(羅漢山)
被災場所	県内全域					
被害の規模	(人的被害)死者3名、重傷者3名、軽傷者8名 (住家被害)全壊6棟、半壊332棟、一部破損64棟、床上浸水745棟、床下浸水847棟 (その他被害)道路233ヶ所、河川491ヶ所、がけ崩れ241ヶ所 など <被害額総計>約126億円					
被害の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ■ 台風第14号は、山口県の西の海上を経て、日本海を北東へ進んだため、県内全域で雨が強まり、特に中部、東部では22時頃まで激しく降り、錦川流域では高速道路の法面の崩壊による人的被害や、床上浸水などの住家被害が多数発生した。 					



台風が接近・上陸すると、大雨、洪水、暴風、高潮などをもたらすんだ。特に、傾斜の急な斜面や川の近くでは、台風による大雨によって、がけ崩れや土石流、河川の氾濫が発生しやすくなるから注意してね。

体験談

『高校生を話し相手に笑顔のおばあちゃん ～集落総出でボランティア～』

岩国市 女性 看護師

被災した集落では、そこに住む人たちが総動員で水害のあと片づけをやりました。家がどっぷり水に浸かっているのに、毎日毎日救援物資を配る手伝いをしてくれたおばあちゃんもいました。配って歩いているから、自分の家に救援物資が来たときに受け取る人がいなかったというおまけ付きでね。

中学生、高校生も手伝ってくれました。「もう、あんたら一緒にお茶飲もうや!」と言って、高校生とお茶を飲んでいるおばあちゃんが一番嬉しそうでした。私たちが泥かきするよりもずっと。

やっぱり、しゃべりたかったんです。命はかろうじて助かったものの、家中泥だらけになって何から手をつけたら良いかもわからず不安がいっぱい。そんな時、孫みたいな高校生と話をするだけで、すごくホッとしたんだと思います。



ボランティアの状況

内閣府『1 日前プロジェクト』より転載

体験談

『ボランティアを受け入れてもらうのも大変 ～お年寄りの警戒心高く～』

岩国市 女性 看護師

被災したのは、川沿いに家がポツポツと 20 軒ぐらい点在している集落でした。当時、ボランティアさんたちが片づけに来てくれたんだけど、「ありがとうございます」って、丁寧に断ってるの。目が「お家に入らないで」って言っている。助けが無かったら片づく訳ないのを知っているのに。

「でも、お婆ちゃんどこで寝るの?」と言うと、「2 階はかつかつ無事やから、濡れてはおるけど、ちょっと濡れてないスペースに布団敷いて寝る。土日になったら、東京と大阪から息子らが来るから」って。土日までまだ 5 日間ぐらいあるのに。

40 代のご夫婦と 70 代の老夫婦では全然違うんですよ。人手が来たら、「ほんなら片づけてもらおうね」って前向きに言われるのは 50 代ぐらいまで。70 代になると、放心状態になっている上に、よそから来た人に対する警戒心が強いんです。

幸い、私はこの地域で育った身ですから、「ああ、あんたあそこんとこの娘さんかね」という話から、お掃除を始めることができました。身近な人の顔が無かったら、ボランティアさんたちも片づけに入れんことも多いのです。



錦川流域

内閣府『1 日前プロジェクト』より転載

関係する石碑



いわくにしみかわちょう せつぎん さいこうすいい ひょうじ
岩国市美川町には、台風第14号が接近したときの最高水位が表示されているよ。

【台風 14 号最高水位】

岩国市や美川町(現岩国市美川町)では、錦川が氾濫し、深いところで 2m を超える浸水深となり、2,000 戸を超える家屋の浸水被害が発生した。

岩国市美川町には、当時の浸水水位が表示されている。



台風 14 号最高水位(岩国市美川町)



地理院タイルを加工して作成

1-12 平成21年7月21日豪雨

(平成21(2009)年7月19日~31日)



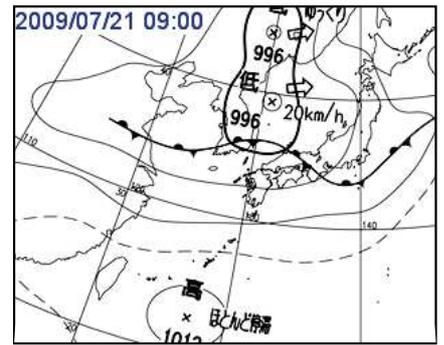
国道 262 号(防府市)



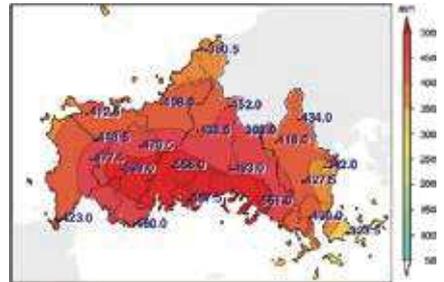
防府市真尾



防府市内



天気図(7月21日09時)



総降水量分布図



山口市稔畑



山口市小鯖



榎野川越流(山口市)

気象の概要	<ul style="list-style-type: none"> 7月20日から21日にかけて、山口県の北の海上をゆっくり南下する梅雨前線に向かって暖かく湿った空気が流れ込み、前線の活動が非常に活発となったことから、大雨となった。 21日、美祢市桜山で日最大1時間降水量90.5mm、防府で日降水量が観測史上1位となる275.0mm、山口で日最大降水量277.0mmを観測し、県内各地で記録的な大雨となった。 					
	総降水量(mm)	557.5(防府)	日降水量(mm)	277.0(山口)	1時間降水量(mm)	90.5(桜山)
被災場所	県内全域、特に防府市					
被害の規模	(人的被害)死者22人、重傷者12人、軽傷者23人 (住家被害)全壊33棟、半壊77棟、一部破損51棟、床上浸水696棟、床下浸水3,864棟 (その他被害)道路397ヶ所、河川893ヶ所、がけ崩れ95ヶ所 など <被害額総計>約181億円					
被害の特徴	<ul style="list-style-type: none"> 7月19日から21日の3日間で、防府で331.5mm、山口で294.0mmを記録し、7月の月間降水量平年値に相当する大雨となり、大規模な土石流や河川の氾濫などを引き起こした。 19日から26日にかけて、西日本で梅雨前線の活動が活発になり、中国地方および九州北部を中心に記録的な大雨となったことから、気象庁では7月19日から26日にかけて災害をもたらした大雨を「平成21年7月中国・九州北部豪雨」と命名した。 					



避難をするときには、隣や近所の人に声をかけよう。地域のみんなで助けあうことで、被害を最小限に抑えることができるんだ。

体験談

『土石流のすさまじさに呆然』 山口市 男性 行政職員



国道 262 号(防府市)

当時、私は防府土木建築事務所で道路維持管理の担当をしており、当日は朝から国道 262 号の現場にいて土石流を体験しました。

降り続く雨が心配になり、8 時前には職場に着きました。8 時 10 分頃、警察から「佐波山トンネルの手前で道路に濁り水が出ているので対応して欲しい。」との一報が入り、すぐに担当の業者へ現場へ行ってもらうよう連絡するとパト車で現場へ急行しました。現場に到着すると、佐波山トンネル手前の法面が小さく崩壊し濁り水が流れ出たので土嚢積みを指示しました。また、市斎場へ行く道の法面も崩落し濁り水が流れ出たので、すぐに市へ対応を依頼しました。

11 時前頃、右田ヶ岳の方から濁った水が異常に流れ出しており、車道を流れる濁り水も多くなってきたので車両の走行は危険と判断し、下り車線（山口～防府）の通行止めを指示しました。

11 時を過ぎてから再び雨が酷くなり、道路沿いの剣川から濁流が溢れ出していました。また、業者から「上り車線（防府～山口）も土砂が出て通行が厳しくなっている」と報告が入ったため、すぐ上り車線も止めるように指示しました。さらに、様子を見ていると、近くにいた作業員が「山鳴りがする」と言うので注意して聞くと左右の山のあちこちで「ゴトゴト」と大きな岩と岩が当たっている音が聞こえてきました。11 時 55 頃、パト車に戻ろうとした時、右田ヶ岳からの土石流、いわゆる“鉄砲水”を目撃しました。道路には大量の土石と流木の残骸、一瞬の出来事でした。上り車線を通行中の車が 1 台吹っ飛ばされたのを見て、すぐに警察に通報しました。

何分過ぎたか定かではありませんが、今度は反対側の山麓から大規模な土石流が発生しました。岩や流木が波を打ってどんどん市内の方へ流れていくのを見て、啞然とし、その瞬間、体が硬直して血の気が失せていくのを感じました。

目の前の車は幸運にも土石流の直撃は免れ、沈まずに浮いた状態でした。車の中の人を助けようと思いつくとしたが目の前は濁流や流木の山があり容易に近づけずやきもきしていると、中の人自力で出てきました。大きな声で叫んで流木の上を伝ってこちらに来よう誘導し、お互いが手を伸ばせば何とか届く所まで来ました。しかし、1 対 1 では濁流に流されると思い、近くにいた作業員を呼んでお互いの服を掴んで踏ん張り運転者を引っ張りました。その瞬間、運転者が足を滑らせ泥水に沈みました。これで自分たちも足を滑らせたなら 3 人とも終わりと思い必死で引っ張り出しました。運転手の人に「一人だけですか」聞いたら「はい」と答えたので少しホッとしました。

その後、中央分離帯へ避難しましたが、水嵩も徐々に増してきたので、これ以上ここに居てはみんな危ないと思い、少し流れが落ち着いた頃を見計らって濁流の中を歩道側へ移動し、もう 1、2 歩で歩道へたどり着く瞬間、濁流に足を取られそのまま倒れ込んでしまいました。10m くらい流されたのでしょうか、ようやく街路樹に掴まりました。転倒の際、時計は壊れ、携帯電話には水が入り使用不能、メガネのレンズに泥がべったり洗おうにも泥水しかない。そういう状態で、約 3 時間流木や岩が流れてくるのを避けながらその場から動けませんでした。

夕方近くになるとやっと雨は止んで、濁流も少しずつ引いて動ける状態になったので市内方面へ移動しました。結局、事務所へ着いたのが 18 時頃だったと思います。鏡で自分の姿を見たら泥だらけ、まるで田んぼの中でバレーボールでもしたような姿でした。



国道 262 号(防府市)

体験談

『近所へ避難を呼びかける

～危ないと思ったら、早めの避難を～』 防府市 男性 自治会長



国道 262 号(防府市)

7月21日、前日からの雨脚はさらに強くなり、高台に位置する我が家から伺える周囲の景色が刻々と薄暗い雲域に変わっていくように見えた。

午前9時を過ぎていただろうか国道262号の片側二車線のうち一車線が大量の雨水で覆われ、拳ぐらいの石ころが勢いよく流れ出す。これまでも、佐波山トンネル出口を塞ぐほどの土砂崩れは何度も起こっており、国道が通行止めになることはあったが、今回は、「ただごとではない」という予期せぬ不安とこのままではいけないという動揺から、ご近所に避難するよう一軒ずつ伝えて廻った。

午前11時を過ぎた頃、避難を申し出た一人住まいのご老人を車で右田公民館へ避難させた。その後公民館から自宅に戻ろうとすると、国道は通行止めになっていたため、国道脇の狭い市道を通って自宅に向かった。市道が登り勾配に近づいた瞬間、一挙に土石流が車正面に迫ってきた。車が20mぐらい後ずさりし、車の天井を土石流が覆った。車の左側は流木で埋め尽くされ、まるで車が防波堤を築いたような状態だった。しばらくして、流れが緩やかになった時を見逃さず、車から脱出、道路そばの民家の玄関ポーチの柱にしがみつき難を逃れた。土石流の発生から50分ぐらいたったであろうか、やっと我に返り、車はその場に放置し、自宅へ向かった。土石流の隙間を縫うようにしてやっとの想いで自宅にたどり着くと、我が家は想像した以上に被害は少ないほうだった。近所の若い親子4人が我が家に身を寄せていた。

午後、空を救助ヘリが旋回を繰り返していた。まもなく、我が家にも救助ヘリが訪れ、全員が救助された。ヘリから見た土石流の爪痕はまさに地獄のあり様であった。

災害から1年目の平成22年7月25日には、豪雨災害の犠牲になられた4名の方々の遺志を永く後世へ伝えようと慰霊碑を建立し、慰霊祭式典を営んだ。今回の災害は住民一人ひとりの心から永遠に消えることはない。これを契機に住民の絆を大切に、災害に負けない地域づくりに取り組んでいきたい。



消防防災ヘリ「きらら」による救出

関係する石碑



ほうふしかつさか 防府市勝坂には、豪雨災害の犠牲者の遺志を永く後世へ伝え、災害を忘れないための慰霊碑があるよ。

【平成21年7月21日豪雨災害慰霊碑】

豪雨による土石流で4人の命が失われた下右田・勝坂地区では、災害から1年目の平成22年7月25日に、豪雨災害の犠牲者の遺志を永く後世へ伝えようと、勝坂自治会により国道262号線沿いに慰霊碑が建立された。



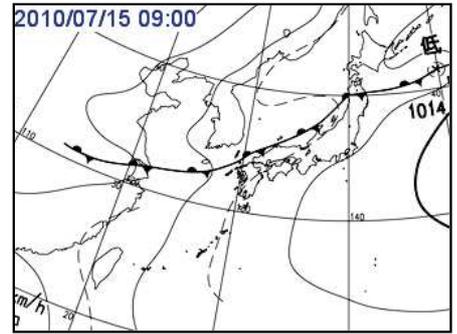
豪雨災害慰霊碑(防府市勝坂)



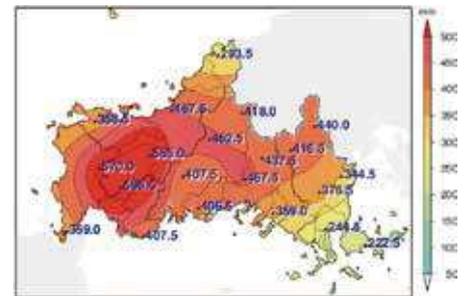
地理院タイルを加工して作成



JR 厚狭駅



天気図(7月15日09時)



総降水量分布図



下関市豊田町



JR 美祢線



周南市小畑

気象の概要	<ul style="list-style-type: none"> ■ 7月10日九州南部に停滞していた梅雨前線が、11日にかけて北上し、7月12日から15日にかけて九州北部から山口県付近に停滞したため、県西部を中心に局地的な集中豪雨となった。 ■ 15日未明から朝にかけて、下関市や美祢市を中心に1時間降水量が50mm以上の雨が降り、下関市豊田では15日06時28分に、72.0mmの1時間降水量を観測した。 ■ 7月10日から20日にかけての総降水量が、美祢市東厚保で596.5mm、美祢市秋吉台で585.0mm、下関市豊田で570.0mmを記録し、7月の平年の月降水量の1.5倍を超える大雨となった。 					
	総降水量(mm)	596.5(東厚保)	日降水量(mm)	234.0(秋吉台)	1時間降水量(mm)	72.0(豊田)
被災場所	県西部、中部					
被害の規模	(住家被害)全壊3棟、半壊35棟、一部破損23棟、床上浸水608棟、床下浸水974棟 (その他被害)道路329ヶ所、河川372ヶ所、がけ崩れ67ヶ所 など <被害額総計>約118億円					
被害の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ■ 厚狭川や木屋川が氾濫し、多くの家屋が浸水したほか、道路法面の崩壊、JR美祢線の橋りょう流出などによる交通網の寸断、水道施設の被災による大規模な断水が発生した。 					



ぼいうぜんせん しゅうちゅうごうう かせん はんらん かおく しんすい
梅雨前線による集中豪雨で、河川の氾濫や家屋の浸水が発生したんだ。
 集中豪雨は短時間のうちに局所的に雨が降るため、道路や低地が水に浸かったり、河
 川が急に増水したりするから注意してね。

体験談

『「来る、来る、来る」路地はまるで川のように

～川の氾濫の大変さ実感～』 山陽小野田市 女性 菓子店経営



新橋落橋

朝起きたときに川の水の音を聞いて、「あ、違う」って思いました。で、姉と川の様子を見にいくと、水の勢いは今まで見たことがないほど速く、川の水が橋にぶつかって跳ね返っていました。

そのうち、橋の欄干のすき間から水があふれ出し、かまぼこ状の橋の上を川のように流れ出したのです。「来る、来る、来る」って感じでね。私たちは水に追いかけられるように家に帰り、とりあえず母と犬を2、3軒先の敷地がちょっと高い知り合いの家に避難させました。結局、我が家に水が浸入してくるのを止めることはできませんでした。

川からどんどん水が上がって来るし、側溝は水がはけない状態になっていますから、川と道路の差がなくなってきて、細い路地はまるで川のようにダーっと水が流れていました。

長いこと住んでいて今まで水に浸かったことが無かったので、「水は来ない」と思っていました。被災して初めて「川が氾濫するって大変なことなんだな」って思いました。

内閣府『1日前プロジェクト』より転載

体験談

『土のうが必要になるなんて夢にも思わず

～今までの経験が裏目に～』 山陽小野田市 女性 菓子店経営

それまでは徐々に徐々にという感じだったんですけどね。目に見えて水が増えてきたのは、ほんの5分か10分ぐらいの間でした。で、「仕方ない。避難しようか」って感じで、近所の高台にあるお宅に避難させてもらいました。

水がヒタヒタと店の方に押しよせてきた時には、「こういう時は土のうが欲しいね」って本気で話をしていました。

昨年、川向こうが水に浸かった時でもうちの方は大丈夫だったし、今までそういう危険を感じたこともなかったので、土のうが必要になるなんて夢にも思っていませんでした。だから、店に水が浸入するのを防ぐ手立ては何もありませんでした。

「万一水害になったら、物なんかに執着しないで、命だけ持って出たらいいい」としか言えませんね。本当に水はあっという間にやってきますから、一人暮らしのお年寄りを誰がどこに避難させるかは、前もって決めておくようにしなければいけないと思いますね。



厚狭駅交差点

内閣府『1日前プロジェクト』より転載

トピックス

避難をするときに注意する事

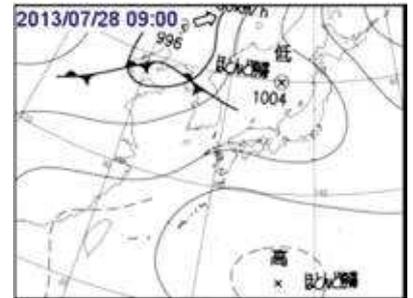
次のことに注意して、避難しよう。

- 避難は原則として徒歩で行う。
- 避難するときに持ち出す荷物は必要最小限にする。
- 水があふれている道を通るときは、足元に注意し、前方を棒などで確認しながら移動する。
- 長靴は脱げやすいため、避難には向いていない。歩きやすい靴をはいて避難する。
- 家族や隣近所の人と声をかけあって、ある程度かたまって避難する。

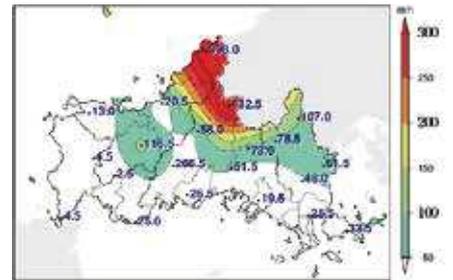




山口市阿東



天気図(7月28日09時)



総降水量分布図



山口市阿東



萩市小川



萩市須佐

気象の概要	<ul style="list-style-type: none"> 山口県付近に発達した雨雲が次々と流れ込み、28日朝から昼過ぎにかけて県北部や中部の一部で猛烈な雨となった。 山口市では28日08時13分に143.0mm、萩市須佐では同日12時04分に138.5mmと、それぞれ観測史上1位となる1時間降水量を観測し、萩市須佐では7月28日12時20分までの3時間に7月の月降水量の平年値(281.6mm)を上回る301.5mmを観測した。 				
	総降水量(mm)	432.5(須佐)	日降水量(mm)	351.0(須佐)	1時間降水量(mm)
被災場所	県北部、中部				
被害の規模	(人的被害)死者2人、行方不明者1人、重傷者4人、軽傷者7人 (住家被害)全壊32棟、半壊508棟、床上浸水153棟、床下浸水1,050棟 (その他被害)道路327ヶ所、河川360ヶ所 など <被害額総計>約190億円				
被害の特徴	<ul style="list-style-type: none"> 阿武川、田万川、須佐川が氾濫し、多くの家屋が浸水したほか、道路法面の崩壊、JR山口線の橋りょう流出やJR山陰本線の橋脚沈下などによる交通網の寸断、水道施設の被災による大規模な断水が発生した。 特別警報の運用開始前であったが、気象庁は、山口県と島根県で特別警報に相当する「これまでに経験したことのないような大雨」であると発表して、「ただちに命を守る行動をとってください」と最大級の警戒を呼びかけた。※特別警報の運用開始は平成25年8月30日 				



避難をするときに、避難場所まで行くのが危険な場合には、無理に避難場所まで行かず、屋内の安全な場所に避難してね。

体験談

『思いもしなかった水害』 萩市 女性 生徒



萩市須佐

私は、あの日家でテレビを見ていました。外は、雨が強く、家の中は停電が続いた状態でした。友達と、電話などで「雨がひどいね」などと話していました。外をのぞいてみると、みぞから水があふれていました。私は、こんな短時間で水がこんなにあふれると思いませんでした。すると、防災行政無線がなり、避難勧告が出されました。友達と公民館へ避難しようとした。でも、道路は水があふれていて、友達の家は、玄関まで水がきていて避難できない状態でした。お姉ちゃんやいとこなどから電話がありました。「危ないから避難

しちやいけん。」と言われて、避難するのをやめました。私は、こわくなり、近所の人を呼びました。家で過ごしていると、少しずつ雨がやんできました。外に出てみると、駐車場の前の道路は、水がひいていました。でも、公民館側の方は、大人の腰ぐらいまで水がありました。水がひいた後、小学校やおばあちゃんの家などに行きました。行く途中に、泥などがたくさんあり、横断歩道などはくずれていました。

私は、水は重い物などをこわしたりするのだなと思いました。おばあちゃんの家は、泥だらけで冷蔵庫などもたおれていました。学校も、プランターなどがちらばっていました。私は、家に帰りながら、「ひどすぎる」などといろんなことを思いました。

次の日になり、もとの須佐に一日でも早くもどってほしいという思いから、友達と一緒に私たちがボランティアをすることにしました。

須佐地域ふるさとづくり協議会『2013. 7.28 山口県北部豪雨災害 次代に伝えたい102 人の証言』より転載

体験談

『家族、集落、地域を守る』 萩市 男性 消防団員

28 日、いつものように目覚め、須佐の花火大会を楽しみに神戸から帰省した孫たちの顔を見て久しぶりの団らん。9 時過ぎごろから、その団らんも束の間で、窓の外では稲光、激しい雨音。雨と言うよりも「ヒョウ」でも降ってるんじゃないかと疑うほどの大粒の雨。1 年生になったばかりの孫が、夏休みの宿題と向かい合っている。窓の外を見ると明方よりも増して暗くなり雷の音が激しく響き、頻りに停電する。その都度懐中電灯やローソクに火をともし、その明りで宿題を…。そうこうしているうちにも、家族の会話は「昼までには雨が止みそうじゃけえ、今晚は花火大会があるじゃろうねえ」と全然危機感がない。



萩市須佐

防災メールで「大雨洪水警報」が入ってくる。それでも「またいつものことじゃあ、そのうち止むじゃろう」。その警報にも全く危機感がなかった。そんな中、10 時頃に総合事務所から「副団長！本町の交番付近は道路が冠水していますよ！大変なことになっています！すぐに出動して下さい！」との電話を受け、まず、家族に安全確保の体制を指示し、次に集落の自主防災組織の役員に「災害時要援護者」への声掛け支援をお願いして総合事務所に向かった。その時は中津にある私の店舗のことは眼中になかった。総合事務所につく頃には、今までに増して雨の量が半端じゃないほどの降り方。総合事務所には、市職員が一人二人と集まってきて、鳴りっぱなしの電話に対応が間に合わない。消防団もすぐに出動をかけるも、道路の冠水などで思うように動けない。各地より避難支援の要請があるが消防団員もそこに行く事が出来ない。大変なもどかしさを感じた時間であった。そんな中でも消防団員が各地で救助や支援に立ち向かったと事後報告を受けた。身の危険を感じながらの行動に敬意を表したい。もう少し早く出動できたら…。しかしあれだけの短時

間での雨量では、完璧に対応はできない。今後に課題を残した。家族からも、家の周辺道路は膝上まで冠水し、床上まで浸水しそうだと救助の要請があったが、2階で避難するように促した。自主防災を組織していても、あまりの短時間の災害でうまく機能しなかったことを反省。3時半ごろ中津の店舗を思い出し、周りの視察を兼ね腰まで浸かりながら近くまで行き、大変なことになっていることが分かった。

翌日、天井まで浸かった店舗ようやく入る事が出来た。無残な姿に全身から力が抜け一瞬呆然とした。ここから猛暑の中1週間に及ぶ片付けが始まった。時間が経ち振り返ると定休日でもよかった。もし営業中で店に居たらどうなっていたらだろうか。失った物の代償も大きかったが、命があったことが何よりも家族で慰めあった。



萩市須佐

須佐地域ふるさとづくり協議会『2013. 7.28山口県北部豪雨災害 次代に伝えたい102人の証言』より転載

トピックス



避難情報の種類

さいがい じゅうみん ひがい およ
災害が発生し、住民に被害が及ぶと判断されるときに、市町は住民に対して
ひなんじょうほう
避難情報を発表するんだよ。

- ▼ 避難準備・高齢者等避難開始 (警戒レベル3) 雨が降り続くなどして、避難勧告や避難指示を行うことが予想される場合に発表される。避難の際に助けを必要とされる高齢者の方や障害をお持ちの方などは避難を開始する。それ以外の方も避難に備えて準備を行う。
- ▼ 避難勧告 (警戒レベル4) 安全のため居住者に避難を勧め、促すもの。「避難してください」という呼びかけ
- ▼ 強 避難指示 (警戒レベル4) 被害の危険がせまったときに出されるもので、勧告より拘束力が強く、住民を避難のために立ち退かせるためのもの。「直ちに避難してください」という緊急性の高い呼びかけ

トピックス

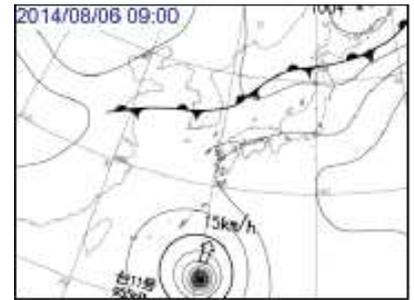


ぜんせん ていきあつ ふ きしやうだい ほっぴやう
台風や前線、低気圧が近づくと大雨が降るおそれがあるんだ。気象台が発表する
さいしん きしやうじやうほう かくにん ひなん
最新の気象情報を、確認して早めの避難を心がけよう。

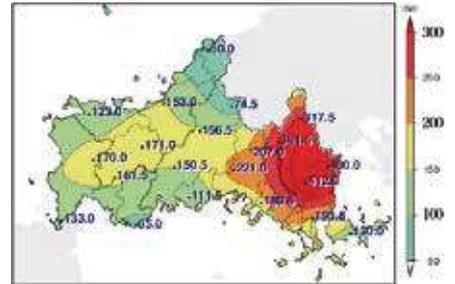
- 注意報・警報・特別警報
大雨などにより災害が起こるおそれがあるときに、気象台が市町単位で発表する。
注意報 災害が起こるおそれがあるとき。
警報 重大な災害が起こるおそれがあるとき。
特別警報 警報の発表基準をはるかに超える豪雨が予想され、重大な災害の起こるおそれが著しく大きいとき。
- 土砂災害警戒情報
雨が長く降り続いたときなど、土砂災害の危険度が高まった場合に、気象台と県が共同で発表する。
- 記録的短時間大雨情報
現在の降雨がその地域にとって災害の発生につながるような、まれにしか観測しない降水量であることを知らせるために、気象台が発表する。山口県では1時間100ミリ以上の降水量が観測された場合に発表される。



岩国市新港



天気図(8月6日09時)



総降水量分布図



岩国市関戸



和木町瀬田



和木町瀬田

気象の概要	<ul style="list-style-type: none"> 山口県では、8月1日から4日にかけて、台風第12号や台風から変わった熱帯低気圧の影響で暖かく湿った空気の流れ込みが続いた。 8月5日から6日にかけて、日本の南にある台風第11号や高気圧周辺部からの暖かく湿った空気が流れ込んだため、大気の状態が非常に不安定となり、山口県東部を中心に発達した雨雲が停滞したため猛烈な雨となった。 					
	総降水量(mm)	412.0(玖珂)	日降水量(mm)	217.0(岩国)	1時間降水量(mm)	71.0(岩国)
被災場所	県東部					
被害の規模	(人的被害)死者2人、重傷者3人、軽傷者1人 (住家被害)全壊10棟、半壊190棟、一部破損1棟、床上浸水11棟、床下浸水265棟 (その他被害)道路41ヶ所、河川75ヶ所 など <被害額総計>約19億円					
被害の特徴	<ul style="list-style-type: none"> 岩国市では6日05時51分までの1時間降水量は71.0mmの観測史上1位を記録し、6日05時50分までの3時間降水量では8月の月降水量の平年値(127.2mm)を上回る156.0mmの観測史上1位を記録する大雨となり、複数箇所で土砂災害が発生し、住宅地が被害を受けた。 					

岩国市玖珂で71.0 mmの1時間降水量、156.0 mmの3時間降水量を観測し、土砂災害が発生したんだ。

自分達の住む市や町で過去にどのような災害があったのか、そのときの降水量がどれくらいあったのかを確認しておくことはとても重要なんだ。



体験談

『あたり一面泥の海～あつという間に床上浸水～』 和木町 男性 消防団員

私が消防団に入って20年経ちますが、このような大雨は初めての経験でした。

6時くらいの一歩雨がひどい時に、家の横の坂根川から水があふれているのを見て恐怖を覚えました。その時はまだ、消防団も召集はかかっておらず、下が浸水しているという情報はありませんでした。

11時に現地対策本部が設置され、消防団の招集がかかりました。召集されて初めて現地を見ました。あたり一面浸水していて、何をしたらよいか分からず、見ているしかありませんでした。水害の恐ろしさ、何も出来ない無力さを感じました。

召集された消防団員から情報が集まり、だんだんと状況が分かってきました。早朝だったため、皆さん自宅にいて、100戸近く孤立していました。皆さん2階に避難されたそうですが、あつという間に床上まで水が来たそうです。

まずは、大型のボートで、孤立した人、一人で住んでいる高齢者などの救助を行い、だんだんと水が引いてくると、小さなボートを使って、各家庭に水を配布しました。

午後2時半くらいになって、道路が見えるまで水が引いたので、直ぐに道路の復旧を始めました。流されてきた土砂や、流されて道路をふさいでいた車、家の中から出された家財などを道路の脇に寄せ、とにかく道路が通れるようしました。道路が通れるようになると、次はポンプ車で道路の清掃、いたるところにある泥を洗い流しました。泥は乾くと粉塵となるので、急ぐ必要がありました。

山が崩れたすぐ下に住んでいる方から「浸水はしなかったけれども、山は崩れて水が来たから、身の危険を感じて、職場まで直ぐに逃げた。」というのを後から聞いて、この辺の人たちは私とは比べ物にならない程の恐怖を感じたんだと思います。



和木町瀬田

体験談

『災害は「まさか」ではなく「もしかしたら」～事前の備えが大切～』 岩国市 男性 自治会長



岩国市新港

前の日から集中豪雨のように雨が降って、深夜12時過ぎてからだんだん雨の降りがひどくなりました。3時頃だったと思いますが、バケツをひっくり返したような雨が降っていて、これは危ないと思いました。

そうするうちに、3時半頃だと思いますが、1度目の山崩れが起きました。新港川に向かって山が崩れました。大きな岩がごろごろと流れていくのを見た川沿いの人から「これは逃げんといけんと思ったけれど、あれだけの雨の降りだと、外に出るのも危ないので、じっと我慢とった。」と後で言われました。でも、雨音で何も聞こえなくて、

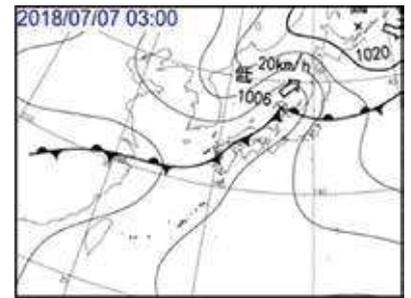
私はそんな状態だというのが分かりませんでした。

そして、2度目の山崩れが5時50分ぐらいに起きました。一瞬でした。ドカーッと家が揺れたものですから、飛び起きて外を見ると、上にある家が崩れてその埃がプワーッと舞っていました。上に上ってみると2階建ての家がなくなっていました。上の家に1人若い人がいて、その時居たのかは分からなかったけれど、警察に状況だけは知らせようと思って電話しました。また、土砂が線路まで流れていたから、JRにも電話しました。

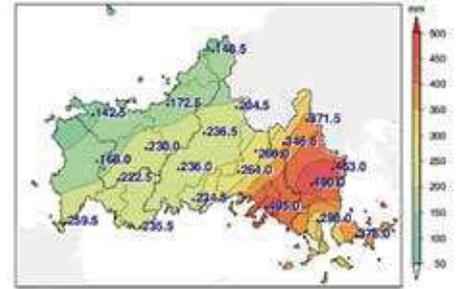
山崩れになるとは、私も住んでいる人の誰もが思わなかったです。ここはそのような谷じゃないと思っていたからびっくりしました。平成19年にこの地区で自主防災を立ち上げています。災害はいつ発生するのかわからないから、早く進めないといけないということで、何があっても対処できるようにしようじゃないかと、今話し合いを進めています。



岩国市周東町



天気図(7月7日03時)



総降水量分布図



岩国市周東町



光市小周防



光市小周防

気象の概要	<ul style="list-style-type: none"> 7月5日から6日にかけて、梅雨前線が九州北部地方に停滞した。 3日に東シナ海から対馬海峡を通過し日本海に進んだ台風第7号の影響で、西日本は暖かく湿った空気に覆われ、長時間にわたり大気の状態が非常に不安定となり、山口県では活発化した梅雨前線の影響で記録的な大雨となった。 					
	総降水量(mm)	495.0(下松)	日降水量(mm)	343.0(岩国)	1時間降水量(mm)	86.0(下松)
被災場所	県東部					
被害の規模	(人的被害)死者3名、重傷者3名、軽症者10名 (住家被害)全壊23棟、半壊520棟、一部損壊106棟、床上浸水144棟、床下浸水727棟 (その他被害)道路380箇所、河川428箇所等 <被害額総計>約221億					
被害の特徴	<ul style="list-style-type: none"> 7月5日から8日にかけて断続的に激しい雨が降り、総降水量は、5日から8日にかけて下松(下松市)で495.0mm、玖珂(岩国市)で490.0mmを観測するなど、中部、東部を中心に大雨となった。1時間降水量は、下松で5日2時1分までに86.0mmの猛烈な雨、玖珂で7日2時32分までに76.0mmの非常に激しい雨が降り、観測史上最大となった。24時間降水量は、岩国(岩国市)で7日5時10分までに343.0mmと観測史上最大となり、複数個所で土砂災害が発生し、住家地が被害を受けた。 					

体験談

『早めの避難が命を救う』 光市 自治会長

光市では、7月5日から7月8日にかけて断続的に激しい雨が降り、累計456.0mmの大雨を記録しました。

私が住んでいる小周防新宮地区では、8日未明に島田川が氾濫し、県道光・徳山線が冠水して、一時孤立状態になりました。そして、多くの家屋で床上・床下が浸水し、甚大な被害が発生しました。

消防団員の私は、6日の19時頃に召集がかかり、広報車で地域を回って自主避難を呼びかけました。23時頃には天気が小康状態になったため、いったん解散したのですが、深夜の3時に再度召集がかかりました。その後、午前4時頃から島田川が越水し水が入ってきて、5時には道路が冠水してしまいました。

この7月豪雨を振り返ると、色々な課題があったと思います。

特に、高齢者の避難は大変少なく、支援体制が不十分だったと感じました。高齢者には、避難に必要な情報が届かず、避難の判断や、自力で避難することができない方が多くいらっしゃり、安心・安全に避難できるシステムの構築が必要であることを痛感した次第です。

そんな中、地域でも、災害直後だからこそ出来ることを協力してやろうということになり、避難体制づくりをすすめていくこととしました。

まず、自分達の住まいや地域が危険な場所にあるのか、地域全体の災害リスクの確認や、避難場所等を理解した上で、高齢者も含めた地域住民が避難できるよう、呼びかけあって避難するグループを作りました。その後、実際に避難訓練に取り組み、訓練後にはみんなで振り返って、そこで出た改善点や意見を次回の訓練に活かすなど、災害時の「逃げ遅れゼロ」の実現を目指して地域一丸となって頑張っています。

地域で取り組むにはいろいろな課題がありますが、避難体制を作って訓練をすることで、地域の結束がより強固になったと感じています。

周防地区には、単位自治会が13地区あります。他の地区でも、避難体制を作る取り組みが進むよう、早めの避難を心がけてくれるようお手伝いをしていきたいと思います。



虹川交差点付近



1.5m以上の浸水



島田川付近の住家の塀



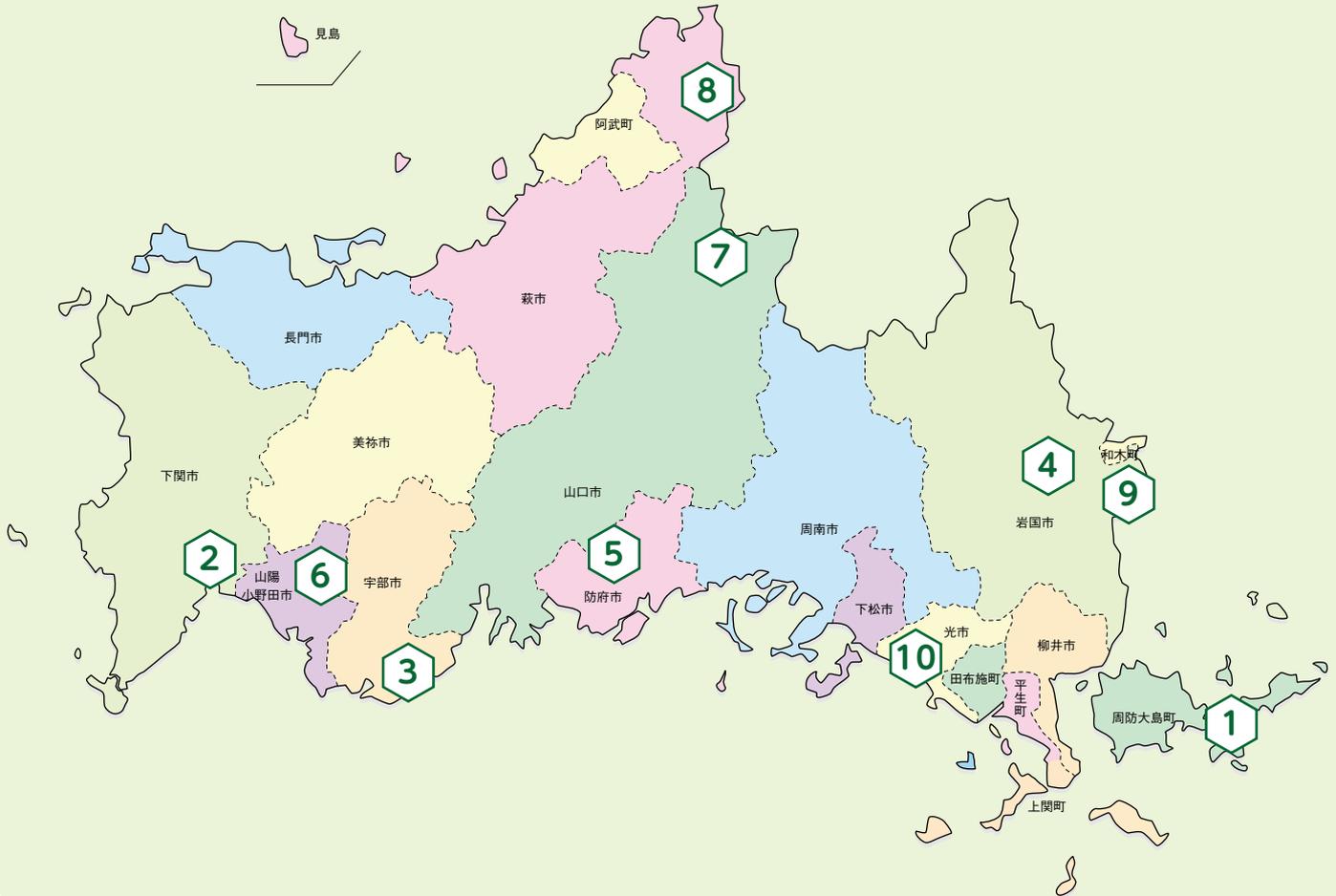
さいがいじ
災害時には、「自分は大丈夫」という思い込みに陥りやすいから、家族や地域で呼び
かけ合って、危険な状況になる前に安全な場所に避難しよう。
おちい
ひなん



県では、土砂災害や浸水害等の災害から地域を守り、安心して暮らしていけるよう、様々な施設等を整備しているんだ。

過去の災害を振り返り、災害で被害を受けた地域でどのような施設等が整備されてきたのか、どんな仕組みで被害を減らしたり防いだりしているのか調べて、身近な地域の災害について考えてみよう。

施設等の位置



施設等の紹介と関連する災害

1 離岸堤

台風による高潮被害を防止するため、波の勢いを弱めることを目的に、離岸堤を改良しています。



(周防大島町馬ヶ原)

関連する災害:

平成3年台風19号(p1-16)
台風による強風や高潮により、塩害や住宅への浸水被害が発生しました。

2 防潮堤など

台風による高潮被害を防止するために、防潮堤を整備し、また、洪水を安全に流下させるために、河道掘削や川幅を拡げ、川の水が流れる面積を大きくしています。



(下関市清末)

関連する災害:

平成11年台風18号(p1-17)
台風の接近と大潮の満潮が重なり、瀬戸内海沿岸で記録的な高潮が発生しました。

3 護岸ごがん

高潮による浸水を防ぐため、護岸のかさ上げや消波ブロックの設置を行っています。



(山口宇部空港)

関連する災害:

平成11年台風18号(p1-17)
台風が上陸し、山口宇部空港ターミナルビルが海水に浸かりました。

4 河川整備 (河道掘削・護岸整備)かせんせいび

洪水を安全に流下させるために、河道掘削や護岸整備を行い、川の水が流れる面積を大きくしています。



(岩国市美川町南桑)

関連する災害:

平成17年台風14号(p1-19)
台風による大雨で、床上浸水などの被害が発生しました。

5 砂防えん堤さぼうてい

土砂・流木等を食い止めて、いのちや住家を守り、地域の安全を守るため、砂防えん堤を整備しています。



(防府市下右田 剣川)

関連する災害:

平成21年7月21日大雨(p1-21)
県央部を中心に大雨が降り、大規模な土石流災害が発生しました。

6 河川整備 (橋脚の減少)きょうきやく

洪水を安全に流下させるために、河道掘削や護岸整備を行い、また、橋の橋脚を減らすことで、川の水が流れる面積を大きくしています。



(山陽小野田市厚狭)

関連する災害:

平成22年7月15日大雨(p1-24)
大雨により厚狭川等が氾濫し、多くの家屋で浸水被害が発生しました。

7 砂防えん堤

土砂・流木等を食い止めて、いのちや住家を守り、地域の安全を守るため、砂防えん堤を整備しています。



(山口市阿東嘉年下 吉部野上西川)

関連する災害:

平成25年7月28日大雨(p1-26)
県北部で断続的に激しい雨が降り、複数箇所で大規模な土砂災害が発生しました。

8 河川整備 (河道掘削・護岸整備)

洪水を安全に流下させるために、河道掘削や護岸整備を行い、川の水が流れる面積を大きくしています。



(萩市中小川)

関連する災害:

平成25年7月28日大雨(p1-26)
河川の氾濫により、JR山陽線の橋梁流出や、JR山陰線の橋脚沈下などによる交通網の寸断が発生しました。

9 擁壁ようへき

土砂・落石等を食い止めて、いのちや住家を守り、地域の安全を守るため、擁壁工などを整備しています。



(岩国市新港町)

関連する災害:

平成26年8月6日大雨(p1-29)
岩国市では、1時間降水量が当時の観測史上1位となる猛烈な雨が降り、複数箇所で大規模な土砂災害が発生しました。

10 河川整備 (河道掘削・護岸整備)

洪水を安全に流下させるために、河道掘削や護岸整備を行い、川の水が流れる面積を大きくしています。



(光市三井)

関連する災害:

平成30年7月豪雨(p1-31)
県東部で断続的に激しい雨が降り、河川の越水や、複数箇所で大規模な土砂災害が発生しました。